

The region agriculture leader of Wakayama Prefecture

和歌山県
和歌山県農業士会連絡協議会

和歌山の 農業士

2016
11
November

地域農業をリードする熱き農業者達

第7号



はじめに

本誌『和歌山の農業士』は、和歌山県の地域農業を牽引するリーダーとして知事に認定された『農業士』が、互いの活動を共有するとともに、関係者の皆様や一般の方々へも、広く積極的に情報発信していくため作成しています。

農業士が長年の農業経験で培った経営観や、これからの農業にかける熱い想いを紹介する内容に加え、各地域で展開される農業改良普及活動や、農業士会としての取り組みなどを内容に盛り込んでいます。

農業に関係する皆様方には、是非、ご一読頂き、地域農業の実情や農業経営の現状等について、ご理解を深めて頂ければ幸いです。

C【目次】 CONTENTS

<巻頭言>

- これからの農業経営 (和歌山県農業士会連絡協議会 副会長 岡田 敦雄) …… 1
担い手対策の一助として (和歌山県農業大学校就農支援センター 所長 崎 純郎) …… 2

<私の農業>

農業士達がこれまで培った自身の経営や活動を紹介

- みんなの笑顔を、目標に (和歌山市 地域農業士 北村 勝己) …… 3
安定した農業を目指して (岩出市 青年農業士 太田 浩司) …… 5
桃・柿 二本柱 ～ 家族労働力・フル稼働～
(かつらぎ町 指導農業士 小柳 好秀) …… 7
農業から始まる地域活性化 ～ 人が集まれば郷土は元気になる！～
(有田川町 指導農業士 藤岡 辰夫) …… 9
農業で地域おこし ～ 地域産業全体の連携を目指して～
(由良町 青年農業士 数見 隆一郎) …… 11
農の原点は農地 ～ 経営を譲れることの喜び～
(田辺市 指導農業士 船本 幸雄) …… 13

<農業に懸ける想い>

青年や新規就農者が、農業への熱い思いや取り組みを紹介

- 和歌山の新生姜を全国1位に！ (和歌山市 青年農業士 井口 智晴) …… 15
持続可能な農業を目指して (紀の川市 青年農業士 秦野 欣也) …… 16
安心・安全な柿づくりを目指して (九度山町 JA 紀北かわかみ青年部 丹下 晴夫) …… 17
「ゼロ」からのSTART (広川町 新規就農者 見定 大輔) …… 18
産地を継承していく (印南町 青年農業士 橋本 智和) …… 19
日々、経営改善 ～あたらしいことにも挑戦～
(上富田町 青年農業士 楠本 隆晃) …… 20
付加価値を付けた農業を目指して (那智勝浦町 青年農業士 安田 裕志) …… 21

<県農業大学校学生です。>

農業大学校1年生の自己紹介&近況報告(第1回) …… 22

池ノ内 華 奈 磯 部 翔 吾 岩 橋 直 路 江 村 啓
折 居 崇 匡 折 戸 律 華 川 西 琉 也

<試験研究レポート>

- イチゴ新品種「紀の香」の特性
(和歌山県農業試験場 栽培部 主任研究員 東 卓弥) …… 25

カキ「刀根早生」の摘蕾・摘果の省力化技術 (和歌山県果樹試験場かき・もも研究所 主査研究員 熊本 昌平)	27
ウメの有機農業に使用できる殺虫剤「除虫菊乳剤」の紹介 (和歌山県果樹試験場うめ研究所 主査研究員 貴志 学)	29

<地域の逸品>

農業士が自慢の地域の隠れた逸品を紹介!!

和歌山でも、早生品種栽培を ブルーベリー接ぎ木苗 (海南市 青年農業士 井戸 陽一郎)	31
卵かけごはんやおムレツにも最適なピンク卵 (橋本市 地域農業士 富岡 幸男)	32
日高元気塾のなた豆茶&なた豆の加工品 (日高町 地域農業士 津村 文雄)	33
和歌山熊野 自然の美味なる恵「古座川の清流鹿」 (那智勝浦町 地域農業士 杉浦 仁)	34

<普及活動レポート>

イチジクの株枯れ病対策について ～キバル台木栽培試験とアイノクイムシ防除対策～ (海草振興局農業水産振興課)	35
イチジクの株枯れ病対策について ～薬剤試験と抵抗性台木の有用性検討～ (那賀振興局農業水産振興課)	37
カキ「紀北川上早生」の摘蕾省力化技術実証 (伊都振興局農業水産振興課)	39
有田みかん産地の活性化 ～モデル供選を育成、産地へ波及～ (有田振興局農業水産振興課)	41
スターチスの県オリジナル品種現地普及に向けた取り組み (日高振興局農業水産振興課)	43
新品種導入による果樹産地の活性化 (西牟婁振興局農業水産振興課)	45
果樹安定生産対策の取組について (東牟婁振興局農業水産振興課)	47

<農業関係制度の紹介>

労災保険 特別加入制度について (和歌山県農業士会連絡協議会事務局)	49
---	----

<お知らせ>

新生「和歌山県農林大学校」始動! (和歌山県農林水産部経営支援課)	51
11月と12月は、農作業事故に注意!! (和歌山県・JAグループ和歌山・NOSAI和歌山・和歌山労働局)	52
平成28年度近畿ブロック農業士地域研究会 (和歌山県農業士会連絡協議会事務局)	53

巻頭言

これからの農業経営

和歌山県農業士会連絡協議会

副会長 岡田 敦雄



暑い暑い夏が終わり、ようやく秋を迎え、会員の皆様にはいかがお過ごしですか。もしかするとラニーニャ現象が発生しているかもしれませんね。ラニーニャ現象が発生すると、太平洋高気圧の北への張り出しが強まり、日本では気温が高くなる傾向にあると言われており、前回、発生した平成22年は記録的な暑さになったと記憶しています。こうした天候不順が、農業をより一層厳しい環境に拍車をかけているように感じます。

さて、我がみなべ町の特産であるウメは今、正念場を迎えています。これまでは、健康志向の高まりから需要が増加、生産量も年々増加を続けてきました。ところが景気低迷等の影響により平成21年秋から梅干しの価格が低迷、その後持ち直しましたが平成25年が豊作となり、消費の伸び悩みから安値水準で推移しています。ウメが供給過剰傾向となっていることは否めず、生産者自らが南高オンリーからの脱却や他作物との複合経営の導入など真剣に考えるべき時期を迎えています。

当町においても農業後継者が減少し、耕作放棄地は増加しています。今後、農家人口も減少し、現在の優良農地が果たして守られていくのか疑問です。当県農家の大部分が家族経営であり、後継者の不在が耕作放棄や離農に繋がっていくことが懸念される

中で、農家の後継者だけではなく、地域の後継者を発掘、育成することが今求められています。すなわち就農者のみならず、多様な就業者を確保していく、新たな仕掛けが必要ではないだろうか。当県は恵まれた立地条件のもとで多種多様な農作物が栽培されており、周年を通じて様々な農作業機会があります。これをビジネスチャンスとして県内外に発信してはどうか。職を求めて様々な助っ人が和歌山県をターゲットにするのではないだろうか。こうした波を起こし、人材バンクとしての受け皿を作り、必要としている地域や農家に就業あるいは就農する新たな仕組みづくりが必要ではないか。当県農業が国際化の中で生き残っていくために「今、やらなければ」。

加えて、産地を維持拡大していくには、指導者の存在が不可欠です。情報化の時代ではありますが、農家とともに歩む技術者が必要です。当町が今日の梅産地になった背景には、強力なリーダーシップを持ち合わせた普及員がいました。高い技術と行動力で地域をまとめ新しい産地を築いてきました。しかし現状は残念ながら、普及員の人数も年々減少し、農家から遠い存在になりつつあります。近畿でもトップクラスを誇る農業生産額から見ても適正と言えるでしょうか。農業を取り巻く環境が厳しい時代であるからこそ、農家は優れた技術者を待っています。

巻頭言

担い手対策の一助として

和歌山県農業大学校就農支援センター

所長 崎 純 郎



農業士の皆様には、地域農業のリーダーとして活躍されておりますことに心より敬意を表するとともに、当センターの研修生の実習受け入れでは、業務ご多忙の折ご協力をいただいておりますこと厚くお礼申し上げます。

就農支援センターにつきましては、新たな担い手の育成確保を目的に、主にU・Iターンなど新規参入者の就農を支援するための機関として平成16年に設置されました。

設置当時はなぜ他産業、他地域からの新規就農者への支援なのか、それより農家子弟など農業という産業の中からの人材育成を優先すべきではないかなど様々な議論もあったようです。設置から13年、新規参入者はもとより農家子弟なども含め400名近くの研修生を受け入れ、約270名の新規就農者を県内に送り出せたことは、当センターが着実に担い手育成の一翼を担ってきた結果であると自負しています。

一方、本県農業の担い手については、主業農家数が直近の10年間で3割近くも減少し、また、年齢構成についても65歳以上の割合が6割に迫るなど、その減少と高齢化は依然として進行しており、次世代を担う後継者の育成が大きな課題になっています。

県では、年間200人の新規就農者の確保を目標に、農業大学校や就農支援センターでの教育・研修の実施、青年等就農資金や青年就農給付金を活用した支援など各種施策に取り組んでいるところですが、直

近5年間の新規就農者数は年間平均150人とまだまだ不足しており、その内訳については年々農家子弟などの新規学卒者の割合が減り、逆にUターンや新規参入者の割合が増えてきている状況です。また、近年、都会を離れて自然豊かな地方で充実した人生を送ろうとする若者や、定年等を機に第2の人生として田舎暮らしを始めようとする中高年者の増加など、地方回帰の気運の高まりも見られます。

農業という産業の将来を考えたとき、現状を維持していくためには既存の農業の世界からの人材育成だけに頼っては限界があるのは明らかです。当センターとしても、新規参入者を中心にその就農サポートを行う総合的な窓口機関として、その果たすべき役割はますます重要になってきていると考えており、県農業の担い手対策の一助として、引き続き新規就農者の育成確保に積極的に取り組んでいきたいと考えています。

新規参入者が就農するにあたっては、農業に関する知識や技術はもちろんのこと農地や農機具等の取得、時には住居の確保などクリアすべきハードルがいくつもあるのが実情です。これらのハードルをクリアするためには当センターの取組に加え、農業士の皆様を始め地域の方々、市町村やJA等関係機関一体となった支援、サポート体制の構築が重要となってきます。農業士の皆様には、どうか地域農業のリーダーとしての指導力を発揮していただき、地域でのサポート体制の構築に向けご協力をいただきますようお願いいたします。

私の農業

みんなの笑顔を、目標に

和歌山市 地域農業士

北村 勝己



1. はじめに

私は昭和54年から11年間、和歌山市内の建設会社で現場事務の仕事に携わっていましたが、農家の長男ということもあり、いつかは就農して後を継ごうと考えていました。就農を決めたのは2人目の子供が生まれた時で、農業なら忙しい中でも子供と接する時間が増やせるのではないかと考えたのです。就農時は父親が温州みかんと水稲、裏作でキャベツ、白菜を栽培していました。

就農と同時に経営改善を図るため後継者育成資金を借り受け、10aのハウスを建て、春夏作の大玉トマトの土耕栽培を始めました。トマトは私の担当で、以前から興味があった有機農業を目指して減農薬に取り組みました。

就農5年目の平成7年に青年農業経営者協議会の仲間3人とバラ栽培を始めることにしました。ハウスは補助事業の認定を受け、私は20aの鉄骨ハウスを建て、バラを導入し、トマトとの複合経営を始めました。4人で始めたので、相談できる仲間がいることは大変心強かったのを憶えています。それぞれが仲間であり、ライバルで、切磋琢磨して技術の向上や経営安定を図りました。始めた当時はバブル景気が弾けてはいましたが、バラは高価格で販売が出来る品目でした。販売は個撰共販で大阪鶴見の「なにわ花市場」に出荷しました。また、市場出荷だけでなく、直接、消費者にバラを使った花束やフ

農業経営の概況

○作付品目と面積	
トマト土耕（春～秋）	10a
トマトロックウール水耕 （周年）	20a
水稲	45a
軟弱野菜（水稲裏作）	20a
○労働力	
家族	4人

ラワーアレンジメントの販売も行いました。バラ栽培は平成24年まで続けました。しかし、その頃になると、バラの輸入が増加してきたことから、単価が思うように上がらなくなってきました。また、燃油高騰によるコストの増加が経営を圧迫してきたの



トマト水耕ベッド

で、15年以上栽培してきたバラ栽培からの撤退を決めました。それまで土耕トマト栽培を続けていたこともあり、バラハウスはトマトのロックウール栽培に転換しました。

2. 農業経営の特徴

現在は土耕とロックウールの大玉トマトを中心に、水稻とその裏作としてのハウレンソウ、コマツナを栽培しています。

土耕トマトは就農当時から減農薬栽培を続けているとともに、味にもこだわっています。関西各府県のA-コープの店頭に並び、好評を得ています。

メインのロックウールの大玉トマトは8月中旬に定植し、10月～7月中旬まで収穫する作型です。出荷は市場を中心にJAやホームセンターの農産物直売所にも出荷しています。

また、ハウスの前で直売も行い、近所の人からの「美味しいです。」「いつも、ありがとう。」の言葉が励みとなり、美味しいトマトを届けるように努力を続けています。



トマト管理作業中の筆者



ハウス前の直売コーナー

3. 今後の経営

今後は減農薬栽培を続けるとともにかん水量の調整や、単肥の調合を工夫して消費者によるこんでもらえる美味しいトマト作りを追求したいと考えています。

ハウス建設から20年も過ぎてきたのでいくつか修繕の必要が出てきています。修繕の一つは二重カーテンの交換で、保温性を向上させコストダウンも図れます。

今年はロックウールでのトマト栽培も4年目に入り、経営も軌道に乗ってきました。長男は東京でサラリーマン生活を送っています。将来的に後継者にスムーズにバトンタッチできるよう規模拡大も視野に入れながら、更なる経営安定を図っていきたいと考えています。

また、自分の就農時に相談相手がいて心強い思いをしたこともあるので、地域の後継者の相談相手となり、地域農業の発展に尽力したいと思います。

私の農業

安定した農業を目指して

岩出市 青年農業士

太田 浩司



1. はじめに

私の実家は代々カーネーション農家であり、子供のころから農業に触れていました。長男ということもあり、家業を継ぐため、千葉大学園芸学部に入學し、卒業後すぐに就農し、15年間カーネーションを栽培しています。

就農当初はスプレータイプのカーネーションも栽培していましたが、現在はソネットシリーズのみを栽培しています。

実際に働いてみると農業の厳しさを知りましたが、同時にやりがいも感じました。

数年前からは私が主体となり仕事をしています。

2. 農業経営の特徴

ソネットシリーズは、スプレータイプに比べ早生系統の品種が多く、早い時期に収穫できるのですが、ベッドにシルバーポリトウを敷くことで、さらに収穫時期を早めています。また、培地を土からココピートに変えることでも収穫時期を早めることができました。それにより高冷地との入れ替え時期に出荷が間に合うようになりました。

また、ソネットシリーズは一重咲きで、輪付きが多く、生産性が高いのが特徴ですが、肥料の加減で品質、収量が変わりやすいので、土壌検査を頻繁に実施し、リアルタイムな土の状態を把握するよう心掛けています。

農業経営の概況

○作付品目と面積	
カーネーション	30a
○労働力	
家族	4人
臨時雇用	2人～4人



ソネットシリーズ

肥料は自分で配合し、給液はパソコンによって自動化し、なるべく無駄に肥料をあげないようにしています、それによって肥料のコストは以前よりも抑



培地をココピートにして栽培した温室

えることができました。

いろいろな品種を作ってみたときは、手間ばかりかかり、思ったよりも収入も伸びなかったため、現在では、収量、価格のデータを管理し品種を選定することで、全体的な作業の効率化をはかっています。

カーネーションは冬季、暖房をしなければならないのですが、近年、暖房コストが上昇しています。しかし、温室内の設定温度を下げてしまうと収穫時期が遅れたり、品質が低下したりするため、新しい被覆素材（サニーコート、エコポカプチ、シルバーポリトウ）を導入し、暖房効率を上げています。また、今までは別棟だったハウスを連棟にすることでコストを抑えることもできました。



シルバーポリトウ

このように今はコストを抑え、収入を上げることを目標として働いています。

3. 今後の経営方針

今後もソネットシリーズを主体とした栽培を続けていきたいと思っています。まだまだ改善できるところはたくさんあるので、作業の自動化できるところは自動化し、できた時間を花の手入れにまわし、より良い品質の花を作り、効率化を進めて規模を拡大していきたいと思っています。

4. おわりに

農業に対するイメージは、収入が不安定で、作業がきついと思っている方が多いようですが、工夫次第で時間的、経済的にも余裕のある農業経営ができるという可能性を感じています。そういった農業に近づけるように日々努力していきたいです。

私の農業

桃・柿二本柱 ～ 家族労働力・フル稼働 ～

かつらぎ町 指導農業士
小柳 好秀



1. はじめに

私は、昭和 47 年に農林省園芸試験場興津支場を卒業し、同時に就農しました。その頃の経営品目は、みかん 2ha、八朔 40a、ネーブル 20a の柑橘類が主体でした。

興津支場に入學した頃から、我が家の主力作目であるみかんの価格の大暴落が始まったのを契機に、他作物への転換を決意し、父親と共に杉山 50a を開墾し、富有柿を栽植しました。

また、昭和 48 年に友人 2 人と信州へ視察に行き、当時はまだ珍しかったネクタリン 20a をみかん転換により導入しました。

その後も、みかん畑を次々と早生柿の「刀根早生」に変えていきました。

平成 15 年に長男が県農業大学校を卒業し、就農したのを機に農地 30 a を借りて桃の栽培面積を増やし、収穫時期が秋に偏らないようにしました。

さらに、平成 16 年より妻が地元の河南地区農産物加工販売組合（果夢果夢バザール）に加入して、桃のもぎとり体験の受け入れも始めました。

また、少しでも早くから柿が収穫できるように「刀根早生」を少しずつ「阪口早生」に高接ぎ更新してきましたが、さらに、収穫時期を早くして、労力分散できるように、最近では「中谷早生」への高接ぎ更新を実践しています。

農業経営の概況

○作付品目と面積	
桃	60a
柿	170a
○労働力	
家族労働力	5 人
臨時雇用	3～4 人

2. 農業経営の特徴

現在の経営面積は 2.3ha（桃 60a、柿 170a）です。

内訳は、桃では「白鳳」20a、「清水白桃」20a、ネクタリン 20a であり、柿では「阪口早生」60a、「刀根早生」40a、「平核無」20a、「富有」50a となっています。



ネクタリン「秀峰」

販売先は、渋柿は全量 JA 選果場へ、「白鳳」はもぎ取り体験で、「清水白桃」と富有柿は全量を JA の「やっちゃん広場」や地元の直売所「果夢果夢バザール」などへ出荷しています。

特に、富有柿は、収穫初期に黒ポリ袋を被せて樹上で完熟させ、12月いっぱいまで販売できるように工夫しています。

我が家の経営は、家族労働力を中心に、摘らい・摘果や桃の袋かけなどの農作業に必要な時だけ雇用するといった効率的で、農薬等の使用回数を減らした低コスト栽培により、安定した収入が得られるように工夫しています。



愛情たっぷり ネクタリン

3. 今後の経営方針

当面は、現状の経営面積を維持しながら、雇用にあまり頼らないでできるだけ家族労力で回れる経営を、また、高品質化を見据えた土づくりの実践を考えています。

特に桃では、仕上げ摘果時期を遅らせるなどの核割れ果の発生を抑える栽培管理の励行や新品種導入、労力のかかりすぎる桃狩り体験部門の縮小等です。

一方、柿では桃の作業と競合しない省力的な栽培管理作業の体系化（摘果、低樹高化）を図りたいと思っています。

しかし、早朝から収穫等の農作業や直売所などへ

の出荷、夜遅くまでの荷作り作業で、少し体力に不安を感じる今日この頃です。

今後も後継者である息子夫婦の意見を尊重して、今後の経営方針や販売方法、新しい栽培技術の導入に積極的に取り組んでいきたいと思っています。

4. おわりに

私の住んでいる地区は、現時点では比較的后継者に恵まれています。周辺地区では後継者のいない農家が急速に増え、高齢化が進み、耕作放棄地が増加しており、鳥獣被害も年々深刻になってきています。また、「刀根早生」の収穫時期が10月上中旬に集中し、市場への供給過剰により柿の価格が不安定になってきています。

これらの問題を解決し、安定した収入を得るには、産地全体で極早生たねなし柿を増産し、「刀根早生」の比率を下げるか、「刀根早生」の側枝剥皮による着色促進を徹底的に実践し、収穫時期を分散させることで価格安定に繋がれるように地域で推進したいと考えています。

我が家では家族9人が揃って、明るく健康で、農繁期には一生懸命働く、農閑期にはパーっと遊んでリフレッシュするという風にメリハリがあって、楽しみのある農業ができれば良いなあと思っています。



家族労力「フル稼働」

私の農業

農業から始まる地域活性化 ～人が集まれば郷土は元気になる！～

有田川町 指導農業士

藤岡辰夫



1. はじめに

私は、高校を卒業後の昭和45年に就農しました。早いもので今年で47年目を迎えます。当時は、暑い夏等の雑柑と中生品種中心の経営でしたが、その後改植を進めて行きました。

就農後は、雑柑を早生温州・八朔に改植しました。昭和50年代に入ってから、中生品種を中晩柑やキウイフルーツに、昭和60年代以降はハウスみかんを導入しました。平成17年～19年にハウスみかんを無加温の不知火と早生の完熟栽培に切り替えて以降、現在の経営に至っています。

2. 農業経営の特徴

ハウスみかんからの転換期には、何か施設を活用出来ないかと考え、早生の完熟栽培を始めました。当初は私の意見に賛同してくれた3戸程度から始めましたが、現在は6戸で取り組んでいます。完熟栽培は、試行錯誤を繰り返しながら、現在の栽培体系となりました。10月にハウスを被覆した後、水分管理を行いつつ、11月20日頃に樹の上部1/3を収穫します。そうすることで残った果実は1月末まで完熟させても安定した品質のものが生産出来るようになりました。

露地みかんでは、園地のほとんどで共同防除が行え、農繁期以外は少人数でも管理が出来るように工夫しています。また、品質の向上を狙って、フィガ

農業経営の概況

○作付品目と面積

・露地柑橘		142a
温州ミカン	極早生	25a
	早生	70a
	晩生	30a
不知火		10a
清見		7a
・施設柑橘		25a
温州ミカン	完熟早生	10a
不知火		10a
レモン		5a
・水稲		13a

○労働力

家族	1人
臨時雇用	1～2人



こだわりの不知火施設栽培

ロン乳剤を積極的に活用しています。

販売は JA ありだ中央選果場へ行っています。



共同防除が出来る傾斜園

また、「有田川町結婚相談所」に設立当初から携わり、現在は会長として年1～2回のイベントを開催しています。なかなか思うようには行きませんが、他地域の成功事例等も参考にしながら、行政と一体となって取り組んでいます。今年は1組が結婚され、夫婦で農業を始められました。農業に関わらず町内に若い方が増えるのは嬉しい限りです。



結婚相談所の会長を務めています

3. 今後の経営方針

自身の経営は、労力的にもいっぱいですので、現在の経営規模を維持しながら、老木園の改植を進め

て行きたいと思います。品種構成は労力配分も考えながらですが、早生中心とし、省力化のためにコンパクトな樹形作りを心がけていきます。就農してからこれまで、大きく経営内容も変わってきましたが、今後も時代の流れに合わせて、柔軟に対応していければと思います。

4. おわりに

私は、今年度末に指導農業士を定年となります。農業士活動を振り返ってみると、他の団体では経験できない様な、多くの方々との横のつながりを持つことができ、農業者としての幅が広がったように思います。

農業を取り巻く状況は厳しいですが、やる気とやりようによってはまだまだ面白さがあります。私は「人」が集まれば何でも出来ると思います。今後も微力ではありますが、少しでも地域農業の発展の役に立てればと考えています。

— MEMO—

「有田川町結婚相談所」とは

平成19年3月設立。

町内在住もしくは在住希望の男性と女性の出会いの場を設けることを目的とした事業。

役員は農業関係組織の会長やその他有識者で組織されている。藤岡氏は平成26年4月より会長を務めている。

男女とも登録制。役員はサポート役として、これまでに合計8回のイベントを開催し、数組が結婚し、町内に在住している。

私の農業

農業で地域おこし

～ 地域産業全体の連携をめざして ～

由良町 青年農業士

数見 隆一郎



1. はじめに

私の住む由良町は古くから柑橘栽培が盛んで、温州みかんでは、マルチ栽培やゆら早生の導入、また中晩柑では、温暖な地域の特性を活かしたさつき八朔の取り組みなど、地域のまとまりが良く、それらの取り組みで勝負してきた印象がありました。15年前に就農した当初は技術習得に専念する日々が続きました。しかし現在の高齢化、後継者不足による地域の基幹産業である農業の衰退を目の当たりにし、技術だけでなく、何か根本的に農業の形態を変えていくシステムをつくる必要性を感じてきました。

産地を維持していくためには、一定以上の労働力と作付面積を維持していかななくてはなりません。そのため力のある農家が集まり共同経営という形態を取り入れられないかと考えました。

2. 農業経営の特徴

私はまず、高齢者から耕作放棄地を借り、経営基盤を拡大し雇用も拡大しました。雇用拡大は、地域の定住者の他地域への雇用流出を防ぐことができます。個人では限界があるので、親しい仲間との共同経営で、もう少し規模を拡大しました。しかし、今度は雇用が追いつかなくなりました。そこで、最近では福祉施設で働く障がい者の方を農作業に派遣するシステムに、福祉施設と連携して取り組んでいます。

農業経営の概況

(個人)	
○作付品目と面積	
温州みかん	150a
中晩柑類	150a
○労働力	
家族	4人
臨時雇用	5人
(共同経営)	
○作付品目と面積	
温州みかん	70a
中晩柑類	70a
○労働力	
共同経営者	3人
臨時雇用	8人



筆者のほ場

そうしたなか、次に考えたのが女性の問題です。地域の人口減少を防ぐためには、女性が安心して働



収穫時の八朔

ける環境が不可欠です。農業（特に急傾斜地柑橘栽培）は女性には厳しい作業が多く、男性と同じ作業を強いるのは困難です。ですが女性の方がむしろ向いている作業も多

くあります。私は作業を分担し、男性、女性、障がい者が共に弱点を補いながら長所を生かす農業経営が結果として地域活性化の起爆剤にならないかと考えています。



障がい者・女性の働く場



完成した加工品

女性の雇用を増やすという点で、みかんの加工販売などの6次産業化も視野に入れ、取り組んでいます。

3. 今後の経営方針

農業人口を少しでも維持していくために、1ターン農業者を受け入れたいと考えています。現在、別表の作付面積の他に40aほど借り入れ、苗木を植えており、今後も共同経営面積を増やし1ターン農業者にも農地を即貸せる体制を整えたいと思っています。

また、今後は空き家の問題も顕著になってくることが予想されるので、1ターン農業者の定住先として活用することを考えています。さらに、農業体験を交えた民泊などもしていきたいと考えています。

4. おわりに

これまでおこなってきた活動を発展させるためには地域産業全体の連携が不可欠です。条件が悪いために人口減少が起こるので、今まで以上に地域のまとまりで勝負しなければなりません。各産業のまとまりだけでは不十分で、地域産業全体の連携で地域を活性化させる必要があると考えます。

農林漁業、商工業、行政が連携し、6次産業化から雇用を増やし、生活基盤を確保して、地元や1ターンの就労者を受け入れることができれば、生活基盤を維持するとともに、子供達も将来住んでいきたいと思える地域になっていくと思います。

微力ながら今後も地域の維持発展のために頑張っていきたいと思っています。

私の農業

農の原点は農地 ～ 経営を譲れることの喜び～

田辺市 指導農業士

船本 幸雄



1. はじめに

私は昭和45年高校卒業後、大阪の商社に入社、昭和49年にUターンして就農しました。

その当時の我家は温州みかんが中心で、梅は経営のごく一部でした。園地は急傾斜地が多く、栽培管理や収穫等が大変不便でした。

昭和53年の経営移譲を機に、効率的で働きやすくしかも安全な園地づくりを地域全体で実施しようと思い、周辺の仲間と共に昭和54年から平成22年まで、地域内3ヶ所で農地開発事業を行い、41haを平坦化しました。我家も2.4haに入植しました。

昭和60年から田辺市農業委員として30年間、平成12年より指導農業士として（平成29年3月定年）務めさせて頂きました。

今では、後継者も出来、農業者年金の受給とあいまって経営を譲ることに大変喜びを感じています。

2. 農業経営の特徴

現在の経営状況は、梅、みかん共に厳しい状況はありますが、効率の良い農業経営実現のため、基盤整備を中心として働きやすい園地づくりを第一に考え、大型倉庫を建設して、フォークリフトを使った作業体系を実現しています。また、ハウスでの梅干し作業、スプリンクラーの導入等出来るだけの省力化に取り組んでいます。

販売についても梅では小梅、青梅収穫、梅干し等の販売の複合化。みかん、中晩柑では、JA出荷、

農業経営の概況

○作付品目と面積	
梅	400a
温州みかん	120 a
(極早生 60 a 早生 60 a)	
中晩柑	30 a
○労働力	
家族	4人
常時雇用	1人
臨時雇用	3～4人



基盤整備を中心として働きやすい園地づくり



リフトを使った軽作業化

直売所、個人宅配等多様な方法で収益確保に努めています。特に、直売所販売では保冷庫を導入して長期販売が出来るよう取り組んでいます。



大型倉庫と保冷庫

作業についても家族、従業員らで役割分担をして、それぞれ責任をもって作業が取り組めるよう家族経営協定で取り決めています。

雇用についても常時雇用と臨時雇用をうまく組み合わせることにより、労働力の確保が可能となっていますので、基本的には日曜日は休日としています。

我家の園地は樹齢が比較的若く、生産量の増加が見込まれる中、単価の上昇に期待をしているところであります。



梅の選果と洗浄



梅のハウス干し



若返りも兼ねて品種更新

3. 今後の経営方針

今後も梅に軸を置いて、温州みかん、中晩柑をうまく組み合わせ多様な販売方法を考えながらやっていきたいと思えます。

平成 28 年度中に経営移譲を行いますので、後は息子たちに任せていきます。我々夫婦は、サポート役にまわって出来る限りの協力をしていきたいと思えます。

園地も毎年 20a 前後の規模で補助事業等を活用しながら、若返りも兼ねて品種更新を図っていきます。

単収の増加と秀品率の向上を目指すと共に平坦化した働きやすい園地が、今後我家では大きな戦力になって来ると思っています。

4. 終わりに

就農して 40 年余り

“農業をきちっとした形で次の世代に譲る”

それを目標にやって来たので大きな喜びを感じています。

4 世代家族 8 人が孫の成長とともに健康で楽しく夢をもって農業ができるように妻と共にやってきました。

農業経営を譲れる喜びを感じながらサポート役にまわって、また、地域貢献もしながら、今しばらく頑張りたいと思えます。

農業に懸ける想い

和歌山の新生姜を全国1位に！

和歌山市 青年農業士

井 口 智 晴



1. はじめに

私は、大学を卒業して、3年間JAの職員として働かせてもらい、25歳の時に就農し、今で7年目になります。

自分の住む地域の特産物である新生姜が、全国2位の生産量であることも、農業を始めるまで知りませんでした。今は、その和歌山の新生姜を全国1位にするべく、栽培管理、土壌改良等を行っています。

2. 農業への思い、取り組み

私は小学校から大学まで、柔道一筋でやってきたので、就農するまでは、ほとんど農業の知識は無く、お遊び程度で、家の手伝いをしたぐらいでした。

その分、体力にはとても自信がありました。しかし、新生姜の栽培はそんなに甘くありませんでした。ポイラー加温によるハウスの栽培、真夏の高温下での収穫作業と大変なことが多く、改めて農業の大変さを知りました。

新生姜の栽培は約半年かかるので、年に1作しかできません。長年、新生姜を作ってきた父親の指導のもと、1年1年少しでも良い物を作れるように努力しています。

近年、新生姜を取り巻く環境は大きく変化しています。オゾン層を守るための土壌消毒剤の規制、大雨、洪水による種生姜の病気拡大等の影響があり、健全な生姜の栽培が難しくなっています。

しかし、これは全国的に言えることなので、ピンチではありますが、チャンスでもあると思っています。たとえ病気が出た圃場でも逃げることなく、効

農業経営の概況

○作付品目と面積	
生姜	80a
ハウレンソウ	80a
コマツナ	80a
○労働力	
家族	4人
常時雇用	4人
臨時雇用	2人

果の高い土壌消毒剤の研究や、消毒方法の改良等をして、同じ畑で連作していくというスタイルを徹底しています。また、高知県や九州での買い付けが主流だった種生姜の栽培にも現在取り組んでいます。

ここ数年では、生姜のいろいろな成分が研究され、健康に良いということで生姜ブームが続いて、需要も多くなっています。

その期待に少しでも応えられるように、和歌山の新生姜産地振興に少しでも協力していきたいと思っています。



ハウス前 新生姜とともに

農業に懸ける想い

持続可能な農業を目指して

紀の川市 青年農業士

秦 野 欣 也



1. はじめに

私は大学卒業後、大学院進学・中退などを経て和歌山に移住し就農して9年目になります。当初は県就農支援センターで研修を受けて営農をスタートさせました。

我が家は祖父の存命中には紀の川市で農業を営んでいたため住む家があり、隣家の方に耕作してもらって田畑を維持していたので、高齢になったその方から少しずつ返してもらうことで耕作地の確保に困らなかったこと、特に成木が植えてある状態で返してもらえたことは非常に幸運でした。現在は隣家の方の水田や近隣の方の果樹園を借りることができ、耕作面積が増えてきています。

2. 農業への想い・取り組み

就農当初から環境保全型農業に興味があり、紀の川市環境保全型農業グループに加入して勉強し、エコファーマーの認証を取得するなどして取り組んでいます。特に長い年月にわたって持続可能な農業にするため、土づくりによる地力の維持を第一にしていこうと考えています。今のところ桃の園地で除草剤を使わないなど微々たる取り組みで、目立ったことはできていませんが、安全・安心が日本の農産物最大のアピールポイントだと考えていますので、将来に向けて勉強を続けていきたいです。

また今年になって家族が増え、両親は高齢化するなど経営面で考えるべきことが増えました。今後は年間の栽培体系を考えて労力を分散することや省力化を図るなど労働力について考慮しつつ、桃の面積・品種を増やすことや、イチジクの面積増加、水

農業経営の概況

○作付品目と面積	
桃	35a
温州みかん	22a
八朔	8a
イチジク	5a
水稻	60a
白菜	10a
野菜（直売用）	5a
○労働力	
家族	3人



桃の園地は機械除草



新たに規模拡大した柑橘園地

稲の裏作である白菜の作付を増やすことを考えています。また栽培技術を向上させて品質を上げることで収入を確保したいです。

農業に懸ける想い

安心・安全な柿づくりを目指して

九度山町 JA 紀北かわかみ青年部
丹下晴夫



1. はじめに

私は、会社勤めをしていましたが、実家の農業を継ぎたいとの思いが強くなり、平成 21 年に 18 年間勤めた会社を辞め、平成 22 年に 37 歳の時に就農しました。

今現在、6 年を経過しましたが、経営は就農当初と変わらず、柿専作経営で約 1ha の規模です。

その内訳は、渋柿主体で 7 月初旬から 9 月初旬に収穫できるハウス柿 17a、9 月上旬からの極早生「中谷早生」10a、これに続く「刀根早生」60a、10 月中旬以降の「平核無」1.0a 等となっており、両親と 3 人で農作業にいそしんでいます。

但し、露地の摘蕾時期（4～5 月）とハウス柿の管理作業が重なり競合するので、この時期には雇用してやり繰りしています。

2. 農業への想い・取り組み

ハウス柿栽培は、保温対策として二重被覆や暖房機の変温管理を徹底するなど低コスト化を図っています。

摘蕾後にはシルバーシートを樹冠下に敷設し、反射光を利用して施設内の湿度対策と日照改善により、高品質果実生産に努めています。

また、貯水タンク 4 基（36t）を設置し、スプリンクラーによる灌水の自動化で省力化を図っています。施設内の高温・高湿の環境下での作業は大変つらいものがありますが、両親とともに頑張っています。

露地の「刀根早生」では、生理落果防止や肥大・着色促進を目的に、5 月下旬～6 月上旬の時期に主枝剥皮を施し、大玉果生産に取り組んでいます。さらに、最近では有機質肥料の施用も積極的に取り入れています。

当面は、ハウス柿と露地柿の組み合わせで、現状の栽培面積を維持しながら、作業の効率化を進めて

農業経営の概況

- 作付品目と面積
ハウス柿「刀根早生」17a
「中谷早生」10a、「刀根早生」60a
「平核無」10a、「富有」5a
合計 102a
- 労働力
家族 3 人、臨時雇用 2 人



果実の着生状況



ハウス柿の出来は上々

いきたいです。

また、牛糞堆肥等による土づくりをこれまで以上に推進し、高品質、高収益を目指していきたいです。

なお、将来展望として、柿と他果樹との果樹間複合や野菜等の他品目との複合経営も視野に入れて、技術力を高めていきたいと考えています。



家族全員集合

農業に懸ける想い

「ゼロ」からのSTART

広川町 新規就農者

見 定 大 輔



1. はじめに

私は元々徳島県生まれで、父親の仕事の都合により大阪で住んでいた非農家でした。

妻と結婚した当時は大阪府泉南郡で暮らしていましたが、私も妻も幼少期に田舎で過ごしていた経験から、いつかは自然があるところで暮らしていきたいと感じていたなかで、「いつか。ではなく、若いうちに農業で生計を立て、生活したい」との強い意志で、妻の祖父母が住んでいた広川町に移住し、平成28年4月に新規参入しました。

2. 農業への想い・取り組み

現在広川町で、柑橘や梅等の果樹栽培を中心とした生産、加工、販売に取り組んでいます。当面は、農地を借り入れ、レモンやじゃばらの栽培を拡大したいと考えています。

今は農地を探していますが、なかなかみつからないのが現状です。町内に優良な農地が見つければ、将来はイチゴの施設栽培を始めたいとも考えています。

また、最近の消費者のオーガニック野菜や果物、子供への食育の関心が高まるなかで、市場への出荷をメインとした大量生産型の農業ではなく、『環境に配慮した農業生産』を目指し、安全・安心な農作物を消費者に届けていきたいと考えています。

今は就農したばかりで、右も左もわからない状況ですが、一日でも早く一人前になれるように、地域の農業者等と交流を持ち、農業技術や知識を習得していきたいと考えています。

最後に、農業の新規参入は大変難しいことや辛い事も多く、妻と二人、将来についてもとても不安な日々を過ごしたこともあります。

しかし今では、地域の皆様から甚大なる支援を頂き、「どのような困難も乗り越える。」と、日々奮闘

農業経営の概況

○作付品目と面積	
温州みかん（早生・中生）	15 a
梅（南高梅・小梅）	25 a
レモン	5 a
じゃばら	15 a
○労働力	
家族	2人



じゃばら栽培園地



みかんの摘果作業

しております。将来は一日も早く夫婦で農業ができるよう、努力いたします。今後も農地の情報等があれば御一報を頂ければ幸いです。

農業に懸ける想い

産地を継承していく

印南町 青年農業士

橋本 智和



1. はじめに

私の家はカスミソウを主体に青梅を栽培する複合経営をしており、私も高校を卒業して就農するにあたり半年間北海道まで花きの育苗について研修に行きました。そこでは、まず花きの品種が想像以上に多様であること、そして品目によりその育苗方法が全く異なるということを知って驚くとともに、それらを作りこなしていくという楽しさを知ることができました。

2. 農業への想い・取り組み

私に就農を決意させてくれたのは、印南町在住の古田襄治氏が育成されたカスミソウ品種“ダイヤモンド”と、橋ヶ谷という全国有数の産地の存在でした。父をはじめとした地域の皆の不断努力により、橋ヶ谷は全国でもいち早く当地方に適した品種の導入と栽培技術の確立を成し遂げ、現在、私の代に至るまで40年余り産地を繋いできました。

この40年の間には様々な時代の変化がありました。カスミソウは草姿の良さだけでなく花持ちの良さも重視されるようになり、それに応えるように品種改良が進みましたし、より鮮度を保つために出荷輸送も乾式輸送から湿式輸送へとシフトしていきました。

私の家でも、出荷コストは少しかさみますが、バケットに段ボールの化粧箱を被せた形で出荷しています。箱を積み重ねることができるようになるため、輸送経費と梱包時間を削減することができ、そのぶん圃場での栽培管理に時間をかけられています。こ

農業経営の概況

○作付品目と面積	
カスミ草	70a
梅	60a
○労働力	
家族	4人

うすることで、花屋さん、消費者に喜んでもらえるような、高品質のカスミソウを安定して供給することができるようになりました。

今後の経営面での課題としては、6月以降の高温期の花持ちをいかに維持していくか、そして将来を見据えて経営の柱となりえる新規品目は何か、という2点に的を絞って研究しています。また、私個人としては、花きに限らず他品目の生産者や、農業関係機関との情報交換を密にして、広い視野を持った魅力ある生産者となることを目標とし、日々努力していきたいと思っています。



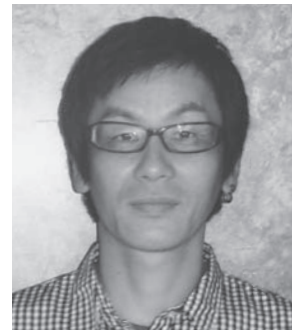
カスミソウの栽培状況

農業に懸ける想い

日々、経営改善 ～ あたらしいことにも挑戦 ～

上富田町 青年農業士

楠本 隆 晃



1. はじめに

私は県立農業大学校を卒業後、平成9年に就農しました。就農当時はみかん主体の経営だったのですが梅を増やしていき2本柱の経営に変えていきました。

収穫時には臨時雇用もしていたのですが、私が就農してからは、徐々に雇用を減らしていき、今では家族3人で仕事すべて行っています。

2. 農業への想い・取り組み

現在、上富田町内でコープこうべの温州みかんのフードプランに取り組んでいて、規格に沿った減農薬栽培等、高品質を目標に生産しています。

制限がある中での高品質みかんの栽培はかなり難しいのですが剪定・摘果の技術向上、マルチ被覆などをして今以上においしいみかんを作りたいです。

梅、みかんとも老木が多く少しずつ改植を進めています。植えた苗が大きく育っていくのはやはり楽しいです。

しかし、最近イノシシなどにより果実や苗、畑が荒らされ被害が多くなっています。この鳥獣害の対策も今後早急にしていかなければならないと考えています。



フードプラン栽培指定園地 温州みかん

農業経営の概況

○作付品目と面積	
梅	100a
(南高 80 a 小梅 20 a)	
温州みかん	80 a
(極早生 30 a 早生 50 a)	
中晩柑	20 a
○労働力	
家族	3人



梅の改植ほ場

また、両親も年なので作業の省力化をできるようにして面積を増やさずに効率の良い畑をつくっていきたいと思います。

価格低迷、自然災害など厳しい農業経営ですが今後、複合経営なども視野に入れて新しいことにも挑戦できたらなと思っています。

— MEMO —

「フードプラン」とは

コープこうべの独自ブランドで、農薬・化学肥料の使用量を減らし、マルチ栽培を行うもの。

農業に懸ける想い

付加価値を付けた農業を目指して

那智勝浦町 青年農業士
安田 裕志



1. はじめに

私は大阪府堺市で生まれ育ち、建築業に従事していましたが、平成23年1月2月に那智勝浦町へ新規就農しました。

就農までは、高知県の(有)大地と自然の恵みで2年間の有機農業研修を受けました。

1ターン就農したため住居や農地探しに始まり、地域の人たちの支援、助言をいただきながら、農業を使わない農業に取り組んでいます。生産物は直売、地元市場、地元ホテルなどに出荷しています。また、ショウガパウダーの試作にも取り組んでいます。

2. 農業への想い・取り組み

新規就農から5年ということもあり、まだまだ未熟な点もあり技術を向上していきたいと考えています。

今年度から労働配分や経営リスク分散のため、ショウガの施設栽培を導入し規模拡大しました。今後も更なる規模拡大と加工品(ショウガパウダー)の試作を行い販路開拓にも取り組んでいきたいと考えています。また、1ターン就農した経験を活かし、新規就農者等に対して積極的にアドバイスをしていきたいと思っています。

農業経営の概況

○作付品目と面積	
ショウガ	10 a
(うち施設栽培 2 a)	
オクラ	8 a
ナバナ	8 a
○労働力	1人



1ターン希望者との意見交換会

県農業大学校学生です。

～農業大学校1年生の自己紹介&近況報告(第1回)～



池ノ内 華 奈

私は、かつらぎ町出身です。入学する前は就職も考えていましたが、出身の紀北農芸高校で学んだ農業についての興味が尽きず、もう少し栽培経験や植物に関する知識を得たいと思い、ここ農業大学校に進学しました。授業や実習の中で、様々なことを教えてもらい、今は大変充実した毎日をご過ごしています。最近では、農業があるからこそ、私たちが豊かに生きていけると考えるようになりました。将来は、農業関係の仕事に就いて、自立していきたいと思います。そのためにも、この学校でたくさんの資格を取得したいです。一生懸命がんばります！

.....

私は大阪府八尾市出身で、高校では1年から自然観察部に所属し、川の生態調査や動物の飼育などを行っていました。当時は農業に興味はなかったのですが、高校2年生の時に伯父の家で取れたミカンを食べ、「こんな美味しいミカンがあるんだ！自分もこんな美味しいものを作りたいなあ。」と思いました。進学を考えた際、上記のミカンが頭をよぎり、両親や伯父と話し合った結果、和歌山の農業大学校に進学することに決めました。

今、農大では、軽音楽部に入部し、部員たちとギターを弾く毎日です。(もちろん、農業、果樹に関する勉強はしっかりやっています！) 将来は、伯父の果樹農園を継ぎ、立派な果樹農家になりたいです。



磯 部 翔 吾



岩橋直路

私の出身地は和歌山市です。

家は兼業農家で主に米、野菜類を育てています。私が農大に入学した理由は、父にこの大学校を勧められたからだけでなく、私自身も父や祖父の手伝いをしているうちに農業という仕事に興味を持ったからです。今までは造園に関する勉強をしていましたが、農業に関する知識はほとんどないため、ここでは農業を行う際に必要な技術や知識をしっかり身に付けたいと考えています。

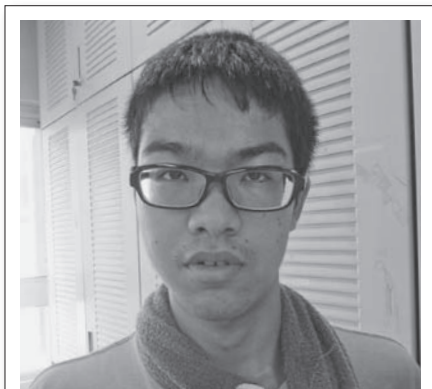
卒業後は就職を考えており、JAで営農指導員として和歌山県の農業の発展に貢献したいと考えています。専攻別の実習がはじまり、私は野菜コースを選択しました。野菜1つ1つに関する特徴や知識を習得し、これからも頑張っていきたいと思います。



自分の家は兼業農家でみかんを栽培しており、小さい頃から手伝いをしていました。その頃から農業に興味を持つようになり、父親にも勧められ、ここ和歌山県農業大学校に入学しました。

専攻は果樹コースにしました。家業のみかんだけでなく、様々な果樹について学んでいきたいと思っています。

自分の性格は内向的で、少し人と話すのが苦手なのですが、寮では先輩や友人達と仲良くできて楽しいです。将来のためにもコミュニケーション能力を向上させ、しっかりと勉強し、親と同じような兼業農家になりたいです。



江村啓



折居崇匡

私の出身地は橋本市です。趣味はブラックバス釣りで、釣れた時の竿にかかる衝撃が快感で、暇があれば池に通っています。

農業大学校への進学は、祖父の柿栽培を手伝っているうちに、農業に対して興味が湧いてきたのがきっかけです。元々、自分は物を作る、物を育てることが好きだったので、農業は自分に向いていると思います。農大では果樹コースを専攻し、柿をはじめ色々な果樹について学んでいきたいと思っています。将来的には、自分の農地を持って、柿を栽培したいと思っているので、ここで栽培技術をしっかりと習得したいと思っています。

私の地元は白浜町なのですが、小さい頃から興味があった「花」について、もっと詳しく勉強したかったため、ここ農業大学校に入学しました。高校の部活動で「花」を育てたり、販売したりした際、とても楽しかったことも進学の一因と言えらると思います。

私の将来の夢は、地元の花屋さん就職し、大好きな「花」の栽培から販売までを行うことです。そのためにも、2年生で受験できるフラワー装飾技能検定に合格したいと思っています。また、花屋さんでの販売、接客業は、コミュニケーション能力が必須だと思うので、和農市（学校自治会主催の直売）などを通じて養っていきたいと思っています。



折戸律華



川西琉也

私は南部高校出身で、吹奏楽部でドラムをしていました。一日3時間以上練習することもありましたが、目標があったためか辛いと思うことは少なかったです。

私は幼い頃からみかん農園を営んでいる祖父の手伝いをしてきました。祖父が作るみかんは甘く、大好きでした。また、小、中学校で野菜を育て、収穫した際にとってもやりがいを感じました。このような経験からか高校卒業後の進路を考えた時、漠然と「農業」を考えるようになり、ここのオープンキャンパスに参加しました。そこでイチジクの収穫体験をしたのですが、思っていたより甘くてすごく驚くと同時に、私もこのような果物を作ってみたいと思うようになりました。

現在、私は野菜コースを専攻しています。イチゴやメロン、スイカなどについてしっかり学び、とても甘い果菜を作るのが、今の私の目標です。

— お知らせ —

和歌山県農業大学校は、来年度から和歌山県農林大学校となります。
詳しくは、51 ページをご覧ください。

試験研究レポート

REPORT

イチゴ新品種「紀の香」の特性

和歌山県農業試験場 栽培部 主任研究員 東 卓 弥

1. はじめに

県内のイチゴ主要品種は「さちのか」と「まりひめ」ですが、「さちのか」は晩生で収量性が低い、「まりひめ」は炭そ病に弱いという欠点があり、現場からは炭そ病に強く市場性、収量性の高い品種の育成が望まれています。そこで、平成24年度から新品種の育成に取り組み、新たに「紀の香」を育成しました。ここでは、「紀の香」の特性について報告します。

2. 育成経過

平成24年に炭そ病に強い「かおり野」を母親に果実品質に優れる「こいのか」を父親として交配しました。得られた種子から実生9654株を育成し、果実品質により462系統を1次選抜しました。平成25年には、早晩性や果実品質、炭そ病耐病性から10系統を二次選抜、平成26年には、収量性、栽培特性により有望な3系統を選抜しました。

平成27年には選抜した3系統を県内の農家6戸で現地実証試験を行い、栽培適応性を確認するとともに、イチゴ生産者等関係者による品種検討会を経て、1系統を品種登録候補として最終選抜、平成28年3月に品種名「紀の香」として品種登録出願を行いました。

3. 品種特性

1) 果実の形態

果実の外果皮色は「まりひめ」よりも明るい赤橙色で、内果皮は外周部から内部に向かってやや赤く着色します(図1、2)。果実の硬さは「さちのか」に近く、果実中心部の空洞は少ないです。平均果実重は「さちのか」(14.6g)より大きく、「まりひめ」(17.5g)よりやや小さい17.2g程度です(データ省略)。

2) 早晩性

「紀の香」の開花始めは10月中旬で、収穫始めは11月中旬です。県主要品種の「さちのか」、「まりひめ」



図1 「紀の香」の着果の様子



図2 「紀の香」の外観と内部の様子

と比べて開花は約半月、収穫は約1ヶ月早い品種です。

3) 収量性

「紀の香」は11月中旬から頂果房の収穫が始まり、年内収量は「まりひめ」よりも多くなります。頂果房は、ほぼ年内に収穫が終了し、第1腋果房の収穫が続いて始まります。「紀の香」は果房の連続性が高く、「まりひめ」では収穫の少ない2月でも連続収穫できます(図3)。

果実の秀品率は、「まりひめ」より低く、「さちのか」と同程度です。

4) 糖酸度

収穫初期の果実糖度はやや低いものの、12月下旬以降2月中旬頃までの糖度は10%前後で「さちのか」や「まりひめ」と同程度です。2月下旬以降は気温の上昇に伴い糖度は低下しますが、「まりひめ」、「さちのか」と同等です(図4)。

酸含量は栽培期間を通じて「まりひめ」より多く、「さちのか」と同等以上で推移します(図5)。

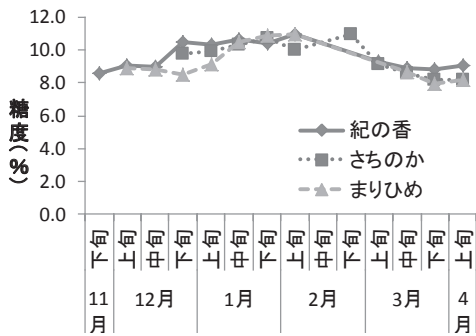


図4 「紀の香」果実の糖度の推移(平成27年)

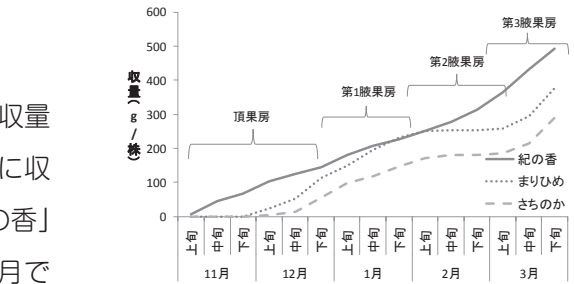


図3 「紀の香」の収量と収穫果房の推移(平成27年)
※果房表示は、「紀の香」の収穫果房

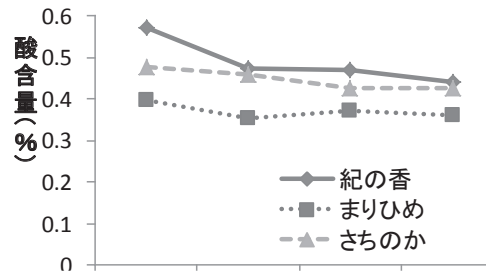


図5 「紀の香」果実の酸含量の推移(平成27年)
※酸はクエン酸に換算

5) 炭そ病耐病性

イチゴの茎葉に炭疽病菌を接種した場合、「まりひめ」が最も早く枯死しました。「紀の香」は「まりひめ」より枯死株率が低く、「さちのか」と同様に推移します。このことから、「紀の香」は、炭そ病に対して罹病性であるが、「まりひめ」よりも強く、「さちのか」と同程度の耐病性と考えられます(図6)。栽培の際は、「さちのか」と同様の炭そ病対策が必要です。

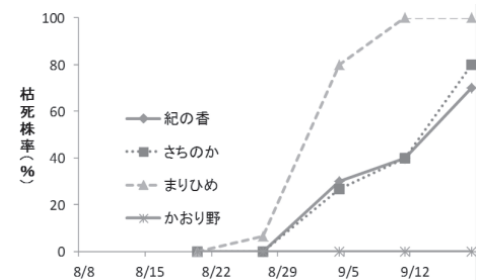


図6 「紀の香」の炭疽病耐病性(平成26年)

4. まとめ

「紀の香」は、県内でこれまで栽培してきた「さちのか」や「まりひめ」とは栽培特性や果実品質が異なる品種です。今年度も県内各地域で現地試作に取り組んでおり、農業試験場内での栽培試験と現地栽培評価を基に、「紀の香」の栽培技術の早期開発を目指しています。

試験研究レポート

REPORT

カキ「刀根早生」の摘蕾・摘果の省力化技術

和歌山県果樹試験場かき・もも研究所 主査研究員 熊本 昌平

1. はじめに

カキの栽培管理のなかで、摘蕾は大玉果を生産するうえで簡便かつ重要な作業ですが、作業適期が短く適期を過ぎると花梗が硬化し極端に作業効率が落ちます。こうしたことから摘蕾作業の効率化を図るために、本研究所で摘蕾・摘果の省力化技術を検討しましたので紹介します。

2. 試験研究の内容・結果等

結果母枝の先端に近い結果枝ほど、結果枝当たりの蕾の数が多くなります。そこで、結果母枝の先端に近い結果枝をなくすことで蕾の数を減らし、摘蕾作業の省力化を図ることを考えました。

結果母枝先端の切り返し処理（以下、先刈り）の処理時期や処理の程度を検討した結果、長さが20cm以上の結果母枝の先端から4芽を先刈りすることにより、摘蕾と摘果の作業時間は30%程度削減できることがわかりました（図1、表1）。1果平均重は無処理の樹と同等ですが、結果枝が少なくなるため、収穫果数が減少し、収量が10%程度減少します（表1）。収量の減少は、摘果の時に着果量を多めに残すことによって解消できることを確認しています。本技術は、連年処理も可能です。



図1 先刈りの方法

表1 先刈りが1樹当たりの摘蕾、摘果作業の省力化および収量及ぼす影響

年	処理区	摘蕾 ^z		摘果 ^y		収穫果数	1果平均重 (g)	収量 (kg)	葉数
		個数	時間(分:秒)	個数	時間(分:秒)				
2014 ^x	先刈り	1519 (61) ^w	44:48 (69)	213 (63)	44:15 (65)	289 (88)	269 (103)	77.7 (92)	4210 (87)
	無処理	2479 (100)	64:31 (100)	339 (100)	68:15 (100)	327 (100)	263 (100)	84.4 (100)	4837 (100)
2015	先刈り	2497 (60)	64:14 (68)	284 (55)	46:05 (73)	341 (85)	299 (103)	100.7 (87)	5847 (85)
	無処理	4129 (100)	94:24 (100)	521 (100)	63:21 (100)	401 (100)	289 (100)	115.9 (100)	6917 (100)

^z摘蕾は4月下旬に1枝1蕾とした

^y摘果は粗摘果と仕上げ摘果の合計とし、粗摘果は6月中旬に葉果比13~15、仕上げ摘果は7月中旬に2014年で葉果比15程度、2015年で17程度とした

^x「刀根早生」15年生樹(2014)を3樹/処理区供試した

^w()内は無処理区に対する割合を示す

3. 処理の方法

先刈りを実施するのに適している品種は、「刀根早生」、「平核無」です。「中谷早生」、「紀北川上早生」等の節間が短い品種でも同様の効果が得られるものの、節間の短さが解消できないため、芽かきが必要になります。

処理する樹は、毎年安定して花がみられる樹勢が中程度の成木です。

(1) 手順

先刈りはせん定の時に行います。

せん定は普段どおり行います。先刈りは、長さ 20cm 以上の結果母枝の先端 4 芽を基本としますが、長さを測ったり 4 芽を数えていると、時間がかかります。そこで、せん定ばさみは 20cm 前後ものが多いと思いますので、せん定ばさみより長い結果母枝の先端を一定の長さ（9cm 程度）切るようにします（図 1）。先刈りはせん定後に行うとやりやすいですが、慣れてくればせん定と同時に行うことで処理時間の短縮につながります。

(2) 注意点

芽が残っていることを必ず確認してから切ってください（図 2）。特に 20cm 前後の結果母枝は 4～5 芽しかなく、すべての芽を切る可能性があるため、2 芽程度残るように軽めに（2～3 芽程度）先刈りをします。また、切った後の先端芽が上芽だと新梢が上向きに徒長する可能性があるため、その場合は前後にずらして、できる限り先端が横芽、下芽になる位置で先刈りをします（図 2）。

先刈りはせん定後の 1 樹当たりの結果母枝全体の 30～40%程度とし、多くても 50%を超えない程度に行います。

先刈りを行うと新梢が波打つように伸びるため、樹冠を拡大している場合は、主枝、垂主枝の先端は先刈りを行わないようにし、側枝を中心に行うようにします。

(3) 処理後の栽培管理

今までどおり行います。ただし、今までどおり摘果を行うと収量が約 10%減るので、摘果の時に果実をやや多めに残すことで（ご自身の感覚より 20%多めに果実を残す）、これまでの収量を維持することができます。

翌年のせん定の時は、伸びた結果母枝の方向によってせん定しにくいことがあります。

4. おわりに

本技術を導入される場合は、まず小規模で試してみて問題がないことを確認のうえ、実践していただきますようお願いいたします。

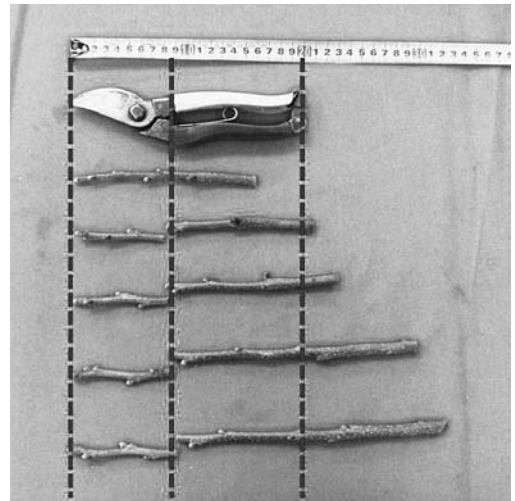


図 2 先刈りの基準
（1 番上の枝は 20cm 未満なので先刈りしない。
2 番目以降は 20cm 以上のため先刈りを実施）

試験研究レポート

REPORT

ウメの有機農業に使用できる殺虫剤「除虫菊乳剤」の紹介

和歌山県果樹試験場うめ研究所 主査研究員 貴志 学

1. はじめに

ウメにはアブラムシ類のうちムギワラギクオマルアブラムシ（以下、ムギワラギク）やオカボノアカアブラムシ（以下、オカボ）等が寄生します。これらのアブラムシ類は一般的な防除体系（慣行防除）ではネオニコチノイド系の化学殺虫剤による防除が行われています。しかし有機栽培では防除効果の高い殺虫剤がなかったため、新梢の葉の巻縮（ムギワラギク被害：写真1）や著しい増殖（オカボ被害：写真2）による樹勢低下や枝の枯死被害に長年悩まされてきました。さらに近年ウメ栽培で問題となっているウメ輪紋ウイルス（PPV）対策のため、有機ウメ生産者からウイルスを媒介するアブラムシ類を防除でき、有機栽培でも使用可能な殺虫剤が強く求められていました。



写真1. ムギワラギクオマルアブラムシによる新梢被害



写真2. 新梢で増殖したオカボノアカアブラムシ

これを受けて、平成28年2月に有機栽培でも使用可能なピレスロイド系殺虫剤、除虫菊乳剤（商品名：金鳥除虫菊乳剤3）がウメの「アブラムシ類」に登録拡大されました（表1）。そこで今回は除虫菊乳剤のアブラムシ類に対する防除効果と使用上の注意点について紹介します。

表1. 除虫菊乳剤（金鳥除虫菊乳剤3）の適用表（平成28年9月30日現在）

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ピレトリンを含む農薬の総使用回数
うめ	アブラムシ類	1,000倍	200～700L/10a	収穫7日前まで	5回以内	散布	5回以内

2. ウメのアブラムシ類に対する防除効果

除虫菊乳剤 1,000 倍希釈液散布 53 日後のムギワラギクオマルアブラムシの防除価（無処理を 0 とする）は 70.5 となり、慣行防除に用いられるモスピランモスピラン顆粒水溶剤 4,000 倍希釈液（防除価 89.0）よりは劣るものの防除効果が認められました（図 1）。またオカボオカボに対しても、モスピランと同程度の防除効果が認められました（図 2）。このように除虫菊乳剤はウメで問題となる 2 種のアブラムシ類に対して実用性のある防除効果のあることが確認されています。

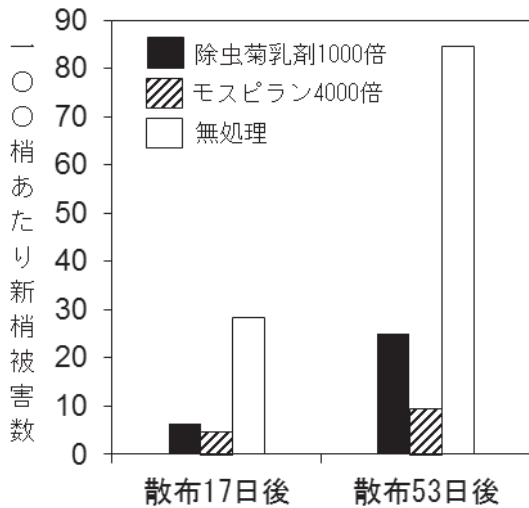


図 1. 除虫菊乳剤によるムギワラギクオマルアブラムシの防除効果（H27 年 3 月 30 日薬剤散布）

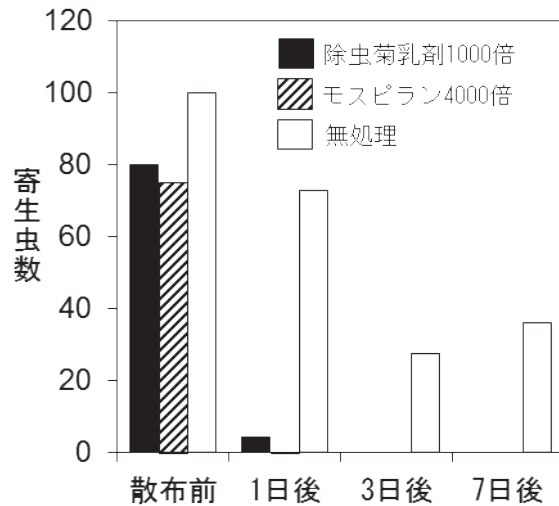


図 2. 除虫菊乳剤によるオカボオカボノアカアブラムシの防除効果（H27 年 5 月 11 日薬剤散布）

3. 使用上の注意点

除虫菊乳剤は除虫菊から抽出した天然成分を使用している殺虫剤のため、有機農業や環境保全型農業でのウメ栽培に使用可能です。しかし除虫菊乳剤には多くの化学殺虫剤が有する浸透移行性や残効性がほとんどありません。そのため除虫菊乳剤の効果を十分に発揮させるためには、薬液を直接アブラムシにかけてやる必要があります。特にオカボ、モモアカアブラムシ、ウメコブアブラムシは寄生・増殖すると葉が巻いたり、密度が高くなると薬剤のかけむらが生じやすくなります。このため、これらのアブラムシ類では発生初期での防除が重要になります。

また除虫菊乳剤は非選択性の殺虫剤であり、アブラムシ以外の色々な昆虫に対しても殺虫効果があります。実際にうめ研究所で行った試験でもケムシ類（アメリカシロヒトリ）に対して、有機リン剤と同等の殺虫効果が見られました。このことはアブラムシ防除時に他の害虫発生の抑制ができる反面、益虫であるテントウムシや寄生蜂等の天敵にも影響がある可能性があります。特にミツバチは除虫菊乳剤に影響を受けることが分かっていますので、ほ場内にミツバチが飛来する時期には使用を控えてください。

地域の逸品!!

和歌山でも、早生品種栽培を ブルーベリー接ぎ木苗

紹介者

海南市 青年農業士

井戸陽一郎

1. 商品の紹介

井戸園芸は、海南市下津町でブルーベリー苗木、各種果樹苗木の生産販売、また生果、冷凍果の販売を行っています。

ブルーベリーは多くの品種があり、栽培には地域に合った品種選びをすることが、大事なポイントです。日本で主に栽培されているのは、ノーザンハイブッシュ系品種、サザンハイブッシュ系品種、ラビットアイ系品種です。

ノーザンハイブッシュ系品種は、果実が大粒で、品質もよく、早生種（成熟時期が6月上旬～）が多く、冷涼な気候で栽培するのに適しています。

サザンハイブッシュ系品種は、果実が大粒で、極早生品種（成熟時期が5月下旬～）が多く、暖地でも栽培ができます。

和歌山での栽培に最も適しているのは、ラビットアイ系品種です。耐暑性や耐乾性が強く、樹勢が特に強いので栽培が比較的容易です、果実の中～小程度の大きさで、収量が多く、晩生品種（成熟時期が7月中旬～）が多いのが特徴です。

ブルーベリー苗木は「挿し木苗」が一般的ですが、当園では、今まで栽培の難しかったハイブッシュ系品種を、和歌山でも栽培可能にする為に、強健なラビットアイ系品種の台木に接ぎ木した「接ぎ木苗」を生産販売、また栽培をしています。

「接ぎ木苗」で栽培することにより、土壌適応性が広くなる、（ラビットアイ系がよく育つ土壌で、同じように良い生育を得られます）暑さ、乾燥に強くなります。

ブルーベリーの中でも最大級果実である「チャンドラー」等、大玉優良品種の栽培も可能になり、また、温暖地である利点を生かし、生果を早期に出荷でき、営利栽培にも有利になりました。

ご興味のある方は、ぜひ下記までご連絡ください。



大玉優良品種「チャンドラー」

2. お問い合わせ先

- ・ブルーベリーカントリー井戸園芸
〒649-0151 和歌山県海南市下津町曾根田56
TEL: 073-494-1181 FAX: 073-494-0820
ホームページ <http://www.blueberry-country.com/>
- ・ブルーベリーカントリー 井戸園芸オンラインショップ
<http://blueberryco.shop28.makeshop.jp/>
- ・[楽天市場] 井戸園芸オンラインショップ
<http://www.rakuten.co.jp/idoengei-onlineshop/>



2年生接ぎ木苗

地域の逸品!!

卵かけごはんやオムレツにも最適な ピンク卵

紹介者

橋本市 地域農業士

富岡幸男



1. 養鶏経営の経過、商品の紹介

養鶏を志し、2年間の派米研修を経験。帰国後に27歳で就農しました。実家は、父の代からの養鶏農家で、当時では県内でも先駆けでした。

現在、成鶏のみの採卵鶏経営で、品種はピンク系のハイラインソニア5万羽、白系のジュリア5万羽、計10万羽を飼育しています。卵の生産量は1日4～5tです。

平成18年頃、飼料価格の高騰や低卵価が続いたのを契機に、農場入口に卵の直売所を設置し、初卵、2黄卵、規格外卵等の販売を自販機で開始。毎日、新鮮で安全安心な商品を揃えています。

また、平成26年より滋賀県内のバームクーヘン専門店へ原料卵として納品。この卵は、特別な栄養成分を添加した飼料を与えて生ませたピンク卵で、バームクーヘンの「焼色」と「ふくらみ」が違くと店から好評を得ています。



卵の直売所

2. 環境対策、安全・安心へのこだわり

臭気対策として、植物由来の酵素（長野県飯田市のメーカー）を水に混ぜて鶏に与えることで鶏の腸内環境を改善し、元気な鶏が産んだ卵は美味しいと皆様から好評を頂いています。

また、鶏糞は、直立ゲージから4～5日間隔に取り除き、堆肥製造の縦型コンポへ投入。2日目には発酵温度が70℃に上昇し、発酵時の悪臭が軽減されました。

なお、鶏糞堆肥は、15kg袋入りで直接販売もしていますので、下記にお問い合わせ下さい。

商品名	規格	価格
お買徳たまご	1kg入	300円
ふたご玉子	12個入	400円
ファミリーパック	20個入	500円
彩り玉子	20個入	600円

(注) 業務用5kg、10kgの箱入りもあります。



お買徳たまご



ふたご玉子



ファミリーパック



彩り玉子

3. お問い合わせ先等

(有) 富岡エッグファーム

代表者 富岡幸男

住所 橋本市隅田町平野 56-2

連絡先 電話 0736-36-8749 (農場)

(FAX 0736-36-1098)



卵の自販機



発酵鶏糞

地域の逸品!!

日高元気塾の なた豆茶&なた豆の加工品

紹介者

日高町 地域農業士

津村文雄

1. 商品の紹介

日高町の農業者らでつくる日高元気塾（代表：井上純氏）は、農業の6次産業化や遊休農地活用を目的とし、平成25年から健康食品として知られる「なた豆」を無農薬栽培し、その加工品の「なた豆茶」の販売を開始しました。

翌年から食品会社や福祉施設と提携して菓子類の製造・販売に取り組み、平成26年に「なた豆のど飴」、27年には「なた豆茶ショコラ」と毎年新しい商品を発売し、好評を博しています。

今年は餅米でできた「あられ」に「なた豆茶」粉末を6%配合した「なた豆茶あられ」を発売しました。なた豆の香ばしさとカリッとした食感が合わさった逸品です。

- なた豆茶（30g、50g、ティーパック45g、粉末50g）
- なた豆茶ゴーヤミックス（ティーパック45g）
- なた豆のど飴（100g）
- なた豆茶ショコラ（6個、8個、5個）
- なた豆茶あられ（50g、100g）



なた豆茶
左：50g 中：ティーパック45g、右：粉末50g



なた豆のお菓子（左から）
なた豆茶ショコラ（8個）
なた豆のど飴（100g）
なた豆茶あられ（50g）
なた豆茶あられ（100g）

2. お問い合わせ先

日高元気塾 代表 井上 純
日高郡日高町方杭 89-1
TEL 0738-64-2007

3. 取扱店

直売所（さわやか日高：日高町、どんどん広場：有田川町、糸野集遊村：有田川町）
よってって（御坊店、美浜店、吉備店、イオンモール和歌山店、阪南店、橿原店）
Aコープ川辺店：日高川町
道の駅（明恵ふるさと館：有田川町、Sanpin 中津：日高川町、ふるさとセンター大塔：田辺市）
飲食店（あんちゃん：日高川町、喫茶トンボ：日高町）
ホテル・旅館（有田川温泉 鮎茶屋：有田市、紀州南部ロイヤルホテル：みなべ町、リヴァージュスパ
ひきがわ：白浜町）

地域の逸品!!

和歌山熊野 自然の美味なる恵 「古座川の清流鹿」

紹介者

那智勝浦町 地域農業士
杉 浦 仁



古座川の清流鹿

野生動物による農作物被害が深刻なため、私は平成 27 年からわな猟免許を取得し有害鳥獣捕獲に取り組んでいます。近隣の古座川町でブランド化の取り組みをされている「古座川の清流鹿」についてご紹介します。

1. 商品の紹介

古座川町では、平成 27 年から地元猟友会と連携し、捕獲したシカやイノシシを食肉に加工し地域資源に活用するため、町が鳥獣食肉処理加工施設を建設し、南紀月の瀬温泉ぼたん荘へ運営を委託しています。

施設は、わかやまジビエ処理施設衛生管理認定を受け、衛生管理ガイドラインに沿って、捕獲されたシカやイノシシを処理加工、データから統計的な肉質の調査も重ねて査定した上で、「S」「A」「B」と商品をランク分けし販売しています。

鹿肉は低カロリー、高タンパク、低脂肪、高铁分と、非常に栄養価が高く、また脂質には、DHA（ドコサヘキサエン酸）が多く含まれています。フランス料理（ジビエ）等に使われる高級食材としても有名な鹿肉は近年では美容、健康など一般的にも注目されています。

古座川の豊かな自然の中で成長したシカの肉を「古座川の清流鹿」と名付けブランド化、東京や大阪など県内外の飲食店 24 店舗に販売。また、学校給食の食材としても活用しています。

2. お問い合わせ先等

古座川町鳥獣食肉処理加工施設

〒649-4106

和歌山県東牟婁郡古座川町月野瀬851

TEL 0735-72-6006

FAX 0735-72-6007

営業時間 8:30-17:00

【休業】土、日、祝日



古座川清流鹿のロースト
南高梅の赤ワインソース

普及活動レポート

REPORT

イチジクの株枯れ病対策について ～キバル台木栽培試験とアイノキクイムシ防除対策～

海草振興局 農業水産振興課

1. はじめに

和歌山市は東山東地区を中心に昔からのイチジクの産地です。県内では紀の川市に次ぐ産地で出荷量は約240t（H26 特産果樹生産動向調査）です。果実は軽量であり、価格も比較的安定していることから、果樹間複合経営の品目と位置づけられ、栽培面積も拡大しています。

しかし、ここ数年、他産地と同様にイチジクに株枯れ病被害が増加してきています。病原菌は糸状菌で地表から深さ20cmまでに止まり、土壌伝染やアイノキクイムシにより広がるといわれています。症状は株元から見られ、褐変して枯れ込みます。また、新梢は夏期の日中に萎れ、夜間には戻るが、症状がひどくなると萎れが戻らなくなります。最後に樹勢が落ち、落葉して枯死します。

2. 株枯れ病の実態把握

株枯れ病の実態把握をするために平成23年度に園地調査を行いました。平成26年度からは毎年、JAわかやま、かき・もも研究所と共同で東山東地区の全園約90園地の調査を行っています。平成27年度の調査では園地による発病樹率は2～82%とそれぞれ異なるものの、発病園地率は約75%と高かったのが分かりました。そのため、防除方法の早期確立が望まれています。



現地調査の様子

3. 株枯れ病対策への取り組み

1) キバル台木柵井ドーフィンの試験栽培

キバル台木は福岡県が育成した台木で、平成24年に品種登録されています。キバル台木では枯死が発生せず、樹勢が維持でき、柵井ドーフィンの自根樹より収量が多くなると報告されています。まだ、福岡県外への一般流通はされていませんが、試験栽培として3園地に数本ずつ導入されています。樹勢や果実品質は他の台木に比べても遜色なく、和海イチジク部会でも好評です。

2) アイノクイムシの防除対策

アイノクイムシは4mm程度の黒色の甲虫でイチジクの幹に穴を開け、産卵するとともに、環境が良ければその中で生息するといわれています。その成虫が株枯れ病菌を体に付着させてイチジクを加害するため、株枯れ病を広げていきます。本害虫に関しては研究が進んでおらず、まだ生態等で不明な点が多いのが現状です。

本害虫に関してはJAわかやま、農薬メーカー、かき・もも研究所、那賀振興局と共同で調査を行っています。

活動が活発になるのは5月以降だと言われていましたが、今年度の消長調査では4月当初から活動が見られ、それ以降7月中旬までそれが続くことが確認できました。

イチジクでのアイノクイムシに唯一農薬登録のある「ガットサイドS」の散布試験も行いました。肩掛け薬剤散布器とハケでの塗布で試験を行いました。散布器は容易に散布できますが、ボタ落ちが多くなる等散布方法には一長一短がありました。また食害孔の中にアイノクイムシが確認出来た幹に塗布したところ、孔から這い出て絶命し、殺虫効果は確認出来ました。忌避効果についても塗布後一部に食害孔が認められたものの効果が認められました。



アイノクイムシの加害孔



薬剤塗布の様子

4. 今後の取り組み

石灰資材による土壌の化学性の改善や定植前の樹根の温湯消毒の試験も実施しており、調査を行っていきます。

普及活動レポート

REPORT

イチジクの株枯れ病対策について ～薬剤試験と抵抗性台木の有用性検討～

那賀振興局 農業水産振興課

1. はじめに

紀の川市はイチジクの栽培が盛んで、全国2位の生産量を誇ります。価格も安定しており、栽培面積は拡大傾向にあります。しかし、イチジク株枯病（図1）の発生が問題となっており、対策が急がれています。那賀振興局では、平成26年度より薬剤試験、抵抗性台木の有用性の検討、現地検討会の開催などの取り組みを行っています。



図1 イチジク株枯病の罹病樹

2. 普及活動の経過、活動内容と成果

(1) 薬剤試験

平成27年度に発生園でICボルドー66D（2倍液）の効果を検討しました。4月28日に、薬液を1樹当たり5Lで株元にかん中処理し、7月14日に調査を行いました。

無処理区で病気の発生がなかったため効果は判然としませんでした。結果枝数および結果枝長はICボルドー処理区で大きくなる傾向がありました（表1）。また、枝挿し法による土壌簡易検定では、ICボルドー

表1 薬剤試験結果

区	倍数	発病の有無	結果枝数	平均結果枝長(cm)
ICボルドー66D	2倍	無し	12.3	124.0
トリフミン水和剤(対照)	500倍	無し	10.3	120.2
無処理区		無し	11.0	118.0

処理日:ICボルドー66Dは4/28、トリフミン水和剤は4/28、5/28
調査日:7/14 試験区:1区1樹3反復

表2 いちじく株枯病の枝挿法による土壌簡易検定調査結果

区	樹No.	無	有
ICボルドー66D	1	5	-
	2	5	-
	3	5	-
トリフミン水和剤(対照)	1	5	-
	2	5	-
	3	5	-
無処理区	1	2	3
	2	3	2
	3	3	2

土壌採取日:9/25

試験方法:9/25に各樹5枝を供試土壌に枝挿し、10/6に枝を恒温機に入れ、10/19に調査を行った。

処理区および対照区の土壌からは菌が検出されませんでした（表2）。IC ボルドー 66 Dの土壌中の病原菌に対する抑制効果は、対照のトリフミン水和剤と同等だと考えられます。平成 28 年度は別の発生園地で同剤の効果について試験を行っており、現在調査中です。

（2）抵抗性台木の有用性の検討

本病に対し抵抗性があるキバル台とネグローネ台を本病の発生園 4 園地（キバル台は 4 園地、ネグローネ台は 2 園地に導入）に植栽し、柵井ドーフィンと生育を比較しています（図 2、図 3）。キバル台は、いずれの園地でも枯死しておらず有望であると考えられましたが、一部の園地で樹勢の弱い株が見られました。導入に適する園地について検討する必要があります。ネグローネ台の生育は比較的良好でした。

植栽後 3 年しか経過していないので、今後も生育調査を継続していきます。



図 2 キバル台



図 3 ネグローネ台

（3）現地検討会の開催

毎年 7～8 月に関係機関（県かき・もも研究所、JA の営農指導員）と連携し、上記の試験園地を巡回し、今後の対策について検討しています（図 4）。株枯病以外にも、湿害、連作障害、カミキリムシやクイムシによる虫害などにより樹勢が弱っている園地が見られるので、状況に合わせた対策をとる必要があると感じました。



図 4 現地検討会

3. 今後の取り組み

平成 28 年度は、IC ボルドー 66 D の効果試験を継続する他、本病を媒介するとされるアイノクイムシの防除対策についても試験を行っています。

今後も引き続き、関係機関と連携して試験や調査を進め、得られた成果については生産者に対する研修会を開催するなど、対策方法の普及につとめていきます。

普及活動レポート

REPORT

カキ「紀北川上早生」の摘蕾省力化技術実証

伊都振興局 農業水産振興課

1. はじめに

「紀北川上早生」はかつらぎ町内で発見された極早生たねなし柿であり、9月上中旬に収穫できることから、労働分散や早出しによる高価格販売が可能な商材として期待されており、農業水産振興課では面積拡大を普及重点プロジェクトと位置づけています。しかし、極早生柿は一般に着蕾数が多く、摘蕾作業に労力が掛かることが栽培上の問題点です。当課では、県かき・もも研究所で研究されている結果母枝先端芽せん除や芽かき処理を行い、摘蕾省力効果について実証試験を行っていますので、内容を紹介します。



写真1 「紀北川上早生」の着蕾

2. 取り組みの経過、活動内容と成果

かつらぎ町内の「紀北川上早生」栽培園地において、平成27年に小規模の結果母枝先端芽せん除処理を行いました。その結果、無処理枝に比べて処理枝では着蕾数が半減し、果実品質には悪影響を及ぼさないことを確認しました。そこで、平成28年には規模を拡大し、結果母枝先端芽せん除処理および芽かき処理を行い、摘蕾作業時間を調査しました。

【結果母枝先端芽せん除処理】

冬期せん定後、2月22日におおむね20cm以上の枝に対し、芽の状態を目視で確認しながら処理を実施しました。処理した母枝の割合は、総母枝数の約3割で、主枝や垂主枝の先端には処理せず側枝を中心に行いました。

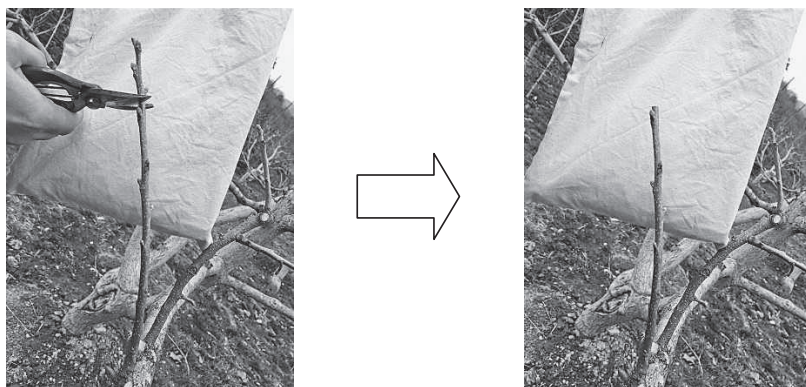


写真2 結果母枝先端芽せん除処理（左：処理前 右：処理後）

【芽かき処理】

着蕾状況が確認できるようになった4月12日に、新梢の混み合った結果母枝に対し、発生新梢の2～4割を芽かきしました。芽かきの程度は「刀根早生」の新梢密度を目安としました。

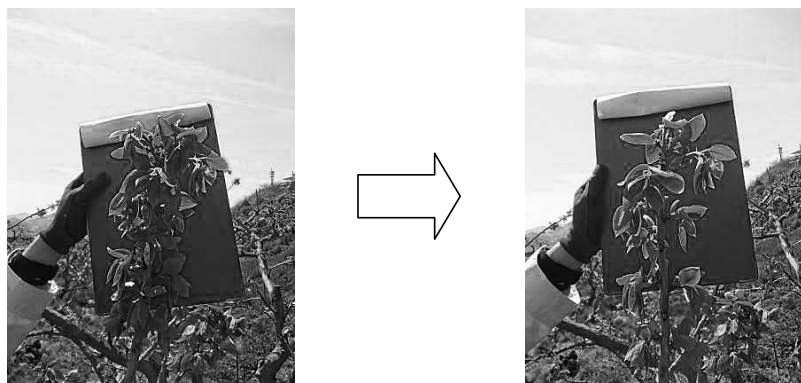


写真3 芽かき処理の程度 (左: 芽かき前 右: 芽かき後)

【結果】

4月28日に摘蕾の作業時間を調査したところ、無処理に比べ、先端芽せん除処理では約23%、芽かき処理では約41%作業時間が削減されました。処理時間を合わせても、無処理に比べそれぞれ14%および27%削減されました。

また、開花後の生理落果への悪影響は、両処理ともみられませんでした。

3. 今後の取り組み

両処理とも新梢数を減少させるため、それに伴いある程度の収量の減少も予想されます。当課では、収穫期に収量への影響を確認するとともに、JA等にも実証内容を紹介し、技術普及の加速化を図っていきます。

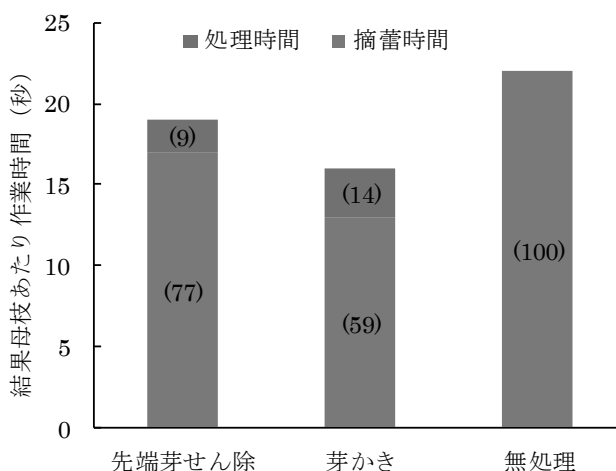


図1 各処理における結果母枝あたり作業時間 (数字は無処理を100とした相対値)



写真4 「紀北川上早生」果実



写真5 講習会の様子

普及活動レポート

REPORT

有田みかん産地の活性化 ～モデル共選を育成、産地へ波及～

有田振興局 農業水産振興課

1. はじめに

有田地域は、全国の温州ミカン生産量の約1割を占める日本一の産地ですが、販売価格は伸び悩み、キロあたりの単価は全国で4位（H26年産 和歌山県）となっています。また、近年は地球温暖化などの影響により過去に経験したことのないような異常気象（干ばつ、高温、豪雨など）が頻繁に起こるため、農業者は樹勢の維持や浮き皮果、果皮障害果の発生軽減対策など高品質果実の生産に苦慮しています。さらに、担い手の減少と従事者の高齢化により、生産基盤の整った優良な樹園地を地域の農業者だけで維持管理することが難しいと推察されます。

これらの地域課題の解消に向けて、有田振興局ではモデル共選を設定し（指導対象：マル賢共選（有田川町））、ブランド力の向上と高品質果実生産技術の高位平準化、新たな担い手を育成する体制づくり等、一体的な取組を支援しています。



有田川町賢地区のみかん園

2. 取り組みの経過、活動内容と成果

（1）高品質安定生産対策

次の4本柱で取り組んでいます。

- ①浮き皮の発生が少ない県オリジナル品種‘きゅうぎ’の適地への植栽を推進。
- ②植物ホルモン剤を活用した浮き皮果や果皮障害果の発生軽減技術の地域への波及。
- ③高品質果実生産のための後期重点摘果や樹上選別の徹底。
- ④共選生産部、JAありだ営農指導員と連携して、各種栽培研修会を開催し、技術の高位平準化を推進。



生産部員による‘きゅうぎ’苗木研修



生産部員による‘きゅうぎ’試食会

①は H27 春と H28 春に改植された ‘きゅうぎ’ の生育状況を調査、確認することとし、適地判定の際のデータ収集と栽培管理方法の検討を行っています。

②は現地実証展示ほを設置し、生産者への普及、啓発を行っています。

③、④は共選生産部が中心となって、以前から取り組んでおり、今後とも継続していきます。

(2) 担い手育成に対応した体制づくり

共選選果場にアルバイトに来ていた若者が農業に魅力を感じ、H27 に 1 名が新規参入（青年就農給付金（開始型）を活用）しました。また、構成農家 1 戸が H28 に「農の雇用事業」を活用し、若者 1 名を雇用就農しています。

今後とも、共選内の樹園地を維持し、生産量を確保するため、多様な担い手の確保育成に共選とともに努めていきます。

(3) 将来ビジョンをもつ組織モデルの育成

共選役員と共選のあり方について、協議を重ねています。H27 には生産部の若手部員を対象に、農業生産法人に関する勉強会を開催し、将来、共選を法人化する場合の要件やメリットやデメリットについて学びました。今後とも、共選の将来ビジョンの作成支援を行います。



生産部員による法人化勉強会

3. 今後の取り組み

‘きゅうぎ’ の栽培適地や苗木の育成方法を把握するため、引き続きデータ収集を行うとともに、得られたデータや改植園の状況を生産部員に説明し、見て理解を深めた上で、‘きゅうぎ’ の栽培適地に改植補助事業を有効に活用することを勧めることで、植栽面積を着実に増やしていきます。

また、マル賢共選生産部、JA ありだ吉備宮農センターと共同で作成する技術マニュアルに沿って、組合員に対し高品質栽培技術の高位平準化を目指していきます。



生産部主催のあら摘果講習会

新規就農者への支援を継続して行います。また、共選組合員の経営面積を維持すべく農地情報の収集を JA ありだ吉備宮農センターとともに行い、経営規模拡大志向の農家に対し農地の利用権設定を勧め優良農地の維持を図ります。

共選の将来ビジョンについては、今後とも共選役員と情報交換を行います。JA ありだ吉備宮農センターと一緒に共選のあり方について検討を重ねていきます。

4. 参考

指導対象：マル賢共選（有田川町賢地区）32 戸、約 50ha



普及活動レポート

REPORT

スターチスの県オリジナル品種現地普及に向けた取り組み

日高振興局 農業水産振興課

1. はじめに

日高地方のスターチスは、県内作付面積 69ha のうち 95%以上を占める全国一の産地を形成しています。近年、切り花単価の低迷、資材費や燃料費の高騰により、スターチスの経営が圧迫されるとともに、必要な経費のうち、種苗費が 10 アールあたり約 90 万円と全体の約 4 割を占めることが、経営を大きく圧迫する要因となっており、その削減が求められています。

そこで、経営コストの削減を目的に、民間育成品種よりも安価に苗を購入できる県オリジナル品種の産地導入推進に取り組んでいます。

なお、本課題は普及計画（平成 27～29 年度）の重点課題「スターチスの新栽培技術・新品種の導入による産地強化」の中の一課題として実施しています。

2. スターチスのオリジナル品種について

スターチス県オリジナル品種の育成は、県農業試験場暖地園芸センターで取り組んでいます。平成 25 年にブルー系の「紀州ファインラベンダー」が、平成 27 年にピンク系の「紀州ファインピンク」、ブルー系の「紀州ファインブルー」、紫系の「紀州ファインパープル」が育成され、出願公表されました。

現在まで「紀州ファイン」シリーズとして、紫系 3 品種、ブルー系 2 品種、ピンク系 1 品種、黄・白系 2 品種の計 8 品種が品種登録・出願公表されています。

3. 取り組みの内容と成果

(1) 現地実証ほ場における取り組み

平成 27 年度は、平成 28 年に品種登録となったブルー系品種「紀州ファインラベンダー」の現地導入に向け、御坊市 2 カ所、印南町 1 カ所に現地実証ほ場を設置しました。

実証ほ場では、切り花本数や切り花品質等について調査を実施するとともに、1 月上旬に関係者による現地検討会を開催し、当品種の特性や栽培方法について意見交換を行いました。

「紀州ファインラベンダー」は収量性が高く、市場評価もよいため、普及が見込まれるとの声が得られますが、栽培面では定植後のこまめな管理により株の充



第 1 図 「紀州ファインラベンダー」の特徴

実を図ること、冬期の株疲れを回避し品質・収量を維持することが重要であることも明らかになりました。



写真 1 現地実証ほ場での調査風景



写真 2 現地検討会の様子

(2) オリジナル品種のPRに向けた取組

「紀州ファインラベンダー」等の県オリジナル品種5品種について、品種の特徴をまとめたPRチラシを作成し、生産者に配布しました。また、11月と2月には、暖地園芸センター、JA紀州と連携し、生産者を対象とした品種説明会を開催し、品種の特性やメリットの説明を行いました。



写真 3 オリジナル品種PRチラシ



写真 4 県オリジナル品種説明会の様子

4. 今後の取り組み

JA紀州管内におけるオリジナル品種の栽培面積は、平成26年産が約4.8ha、平成27年産が約6.1haと年々増加しています。

平成28年度は、現地での要望が高いピンク系品種「紀州ファインピンク」を中心に取り上げて現地実証ほ場での調査を実施します。また、PRチラシの配布や品種説明会の開催を継続して実施し、オリジナル品種の産地導入に向けて取り組みます。



- ◎品種の特徴
- ・花色は、鮮やかなピンク色
 - ・切り花長が長く、ブラシ数が多い
 - ・株が横に張らないので、作業性がよい
 - ・収量は中程度で、収品率が高い

第2図 「紀州ファインピンク」の特徴

普及活動レポート

REPORT

新品種導入による果樹産地の活性化

西牟婁振興局 農業水産振興課

1. はじめに

ウメを核としたカンキツとの複合経営が主体の西牟婁地域では、販売単価の低迷が大きな問題となっています。そこで、振興局では生産者の所得向上を図るため、平成 27 年度から有望品種として期待される県オリジナル品種の導入を重点課題として取り組んでいます。

2. 取り組みの経過、活動内容と成果

【カンキツ】

1) 「YN26」栽培実証園における品種特性の把握

「YN26」は「ゆら早生」の珠心胚実生として和歌山県が育成し平成 24 年に品種登録された極早生温州です。これまでの高接ぎ樹による現地調査より、「ゆら早生」に比べ減酸が早いことが確認され、早期出荷が可能となる有望な極早生種として位置づけられたことから、早期の産地導入を図るため平成 25 年 3 月に苗木による実証園を上富田町に設置しました。平成 27 年度に初結実した果実は、糖はやや低かったものの酸切れが早く、じょうのう膜が非常に薄かったため高品質果実生産に期待できる内容でした。平成 28 年度も継続して品質調査を行っており、当地域における品種特性の早期把握に努めています。



初結実した「YN26」4年生樹

2) 「YN26」導入推進に向けた現地検討会等の実施

平成 27 年 9 月、実証園において生産者や関係者 50 名を対象に現地研修会を開催しました。西牟婁管内で苗木から育てた樹での初結実の実証園が初めてだったことから、参加者らは樹勢や果実の外観等を確認するとともに施肥等の栽培管理について多くの質問が出され、関心の高さが伺えました。

また、平成 27 年 10 月、JA 紀南生産販売委員会連絡協議会にて「YN26」の果実品質調査結果と実証園の生育



実証園での現地検討会

状況について報告するとともに、導入推進に向けて技術面や販売面での意見交換を行いました。果肉先行型品種のため、着色の遅延は販売にも影響することから、着色を早める技術開発が必要等の意見が出されました。今後も面積拡大に向け継続的に情報提供するとともに意見交換を行っていきます。

以上の取り組みにより、「YN26」の平成27年度までの導入本数は約8千8百本、面積換算で約8.8haとなっています。

【ウメ】

1) 「橙高」主幹形仕立てによる実証園を設置

「橙高」は「南高」に「地蔵」をかけ合わせて和歌山県が育成し平成21年に品種登録された品種で、機能性成分（ β -カロテン）が豊富な特徴があります。「南高」に偏った品種構成から脱却するため、有望な新品种の導入を推進し、梅干し用途以外の特徴ある加工品開発につなげることをしています。

実証園は平成27年12月に田辺市上芳養の東山パイロット内に約4a（48樹）で設置しました。樹の仕立ては、うめ研究所の研究成果から初期収量の確保ができ、果実の β -カロテン含量が高まる主幹形仕立ての密植栽培としています。平成28年7月には苗木の生育を促すため、関係機関とともに点滴かん水チューブを設置するとともに除草作業によるチューブ切断を防ぐためチューブの上へ防草シートを敷設しました。今後も新梢の伸長を促進させ、秋期には主幹形仕立ての剪定講習会を行う予定であり、早期成園化に向けた取り組みを進めていきます。



実証園でのかん水チューブ及び防草シートの設置作業風景

2) 新たな加工品開発の検討

「橙高」果実の特徴を活かした新しい加工品開発に向け、うめ研究所及びJA紀南が主体となり、 β -カロテン含量の高いマヨネーズの開発が進められています。また、幅広く加工方法を検討するため、ドライフルーツなどの菓子類への活用も検討され、試作品づくりが進んでいます。今後も各機関と連携しながら、梅干し用途以外の特徴ある加工品開発について継続して検討を行っていきます。

3. 今後の取り組み

カンキツにおいては、温州ミカン「YN26」の当地域における品種特性の早期把握に努めるとともに、品種特性が十分発揮できるようJA紀南等の関係機関と連携して着色促進に向けたマルチの敷設や葉面散布剤を検討しながら栽培技術の確立に努めていきます。今後も実証園の効率的な活用と情報提供により、面積拡大を図っていきます。

ウメでは、JA紀南や県うめ研究所と連携し、「橙高」の初期収量の確保や果実の β -カロテン含量を高める主幹形密植栽培の実証と新たな加工品開発の取り組み支援などを行いながら導入を推進していきます。

普及活動レポート

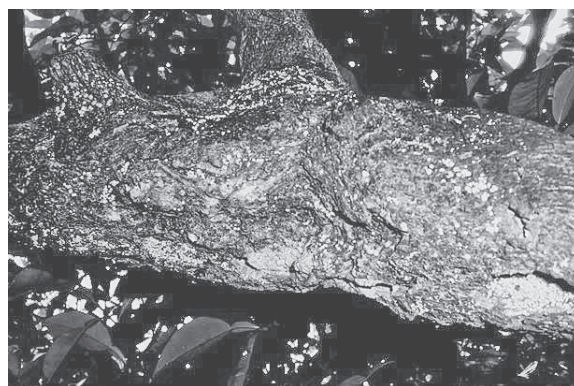
REPORT

果樹安定生産対策の取組について

東牟婁振興局 農業水産振興課

1. はじめに

東牟婁地域における主要な果樹はポンカン、ユズ、ジャバラがあげられます。ポンカンは青果や加工品が産品販売所や個人宅配により販売されています。ユズ、ジャバラについては6次産業化への取組がなされています。しかし、生産者の高齢化・担い手の減少により、管理不足による隔年結果、幹腐病の発生、鳥獣被害による生産量の減少が問題となっています。安定生産への方策が求められています。乾腐病対策及び高齢者にも管理しやすい樹形の改造に取り組みましたので、その活動について紹介します。



ユズの幹腐病罹病樹

2. 取組みの経過、活動内容と成果

1) 幹腐病対策

①ユズにおける対策

(農事組合法人 古座川ゆず平井の里)

生産者への聞き取りにより発生状況を確認するとともに、栽培講習会等で発生原因や発生抑制のための環境づくり、薬剤防除の推進やせん定時の病斑部の切り取りなど対策の推進を行いました。

平成27年は日照条件および通風の改善に向け、農家2名が樹形改造に取り組みました。



ユズの樹形改造

②ジャバラにおける対策

(北山村ジャバラ生産者協同組合)

村営パイロット園を中心に村内ほ場を巡回、発生状況を把握するとともに、栽培講習会で発生抑制のための環境づくり、薬剤防除の推進やせん定時の病斑部の



ジャバラ講習会

切り取りなど対策の推進を行いました。

平成 27 年はジャバラパイロット園において風通しと日照条件の改善にむけた整枝・せん定を実施しました。

2) 高齢者にも管理しやすい樹形への改造

①ユズにおける対策（農事組合法人 古座川ゆず平井の里）

植栽後、30 年以上が経過し、生産者の高齢化による管理不足や鳥獣被害により樹形が乱れ、適正な栽培管理が行いにくくなっています。そこで間伐、樹形改造を行い、その影響を調査。栽培講習会でその結果をもとに間伐、樹形改造による効果について説明しました。

平成 27 年は樹高を下げるための樹形改造に 2 戸の農家が整枝に取り組みました。



密植園の照度調査

②ポンカンにおける対策（那智勝浦町果樹園芸会）

生産者の高齢化に伴い、管理不足による樹形の乱れから隔年結果や収量の減少、品質の低下が見られるため栽培講習会で収穫しやすい樹形の作り方や土づくりについて説明しました。

平成 27 年は樹高を下げるため、若木の樹形の形成を 1 戸の農家が取り組みました。



土づくり講習

3. 今後の取り組み

1) 幹腐病対策

薬剤による防除と発病部の切り取りを推進しながら改植の推進を行います。

2) 高齢者にも管理しやすい樹形への改造

樹形改造は 1 年では効果が表れにくいいため、引き続き樹形の改造を推進しながら樹勢の維持・回復に向けた管理を勧めていきます。

農業関係制度の紹介

『万が一』に 備えてますか？

労災保険 特別加入制度 について

和歌山県農業士会連絡協議会事務局

農作業は傾斜地や高い場所での作業も多く、気をつけていてもけがをしてしまうことがあります。このような万が一のけが等に備えとして保険があります。ここでは、「労災保険特別加入制度」について、概要を紹介します。

1. 労災保険の特別加入制度って？

仕事が原因のけが・病気や、これらによる障害（後遺症）、死亡などの際に給付金が支給される国の制度です。このなかの「特別加入制度」は、専業農家はもちろん、兼業農家でも要件を満たせば加入することができます。

2. どんな人が加入できるの？

加入の要件は次の3つがあり、これらのいずれかに該当すれば加入できます。

※ 加入は1つを選んで行います。複数に該当しても、重複して加入はできません。

種類	①特定農作業従事者	②指定農業機械作業従事者	③中小事業主
加入の要件	経営規模がA又はBで、かつ①～⑤のいずれか作業を行う農業者 A: 年間農業収入(売上)が300万円以上 B: 経営耕地面積2ha以上 ①トラクター等の農業機械を使用する作業 ②高所での作業 ③農薬散布 ④酸欠危険がある作業 ⑤牛等家畜に接触する作業	①～⑧のいずれかの機械を使った農作業をする自営農業者 ①動力耕耘機(例:トラクター) ②動力溝掘機 ③自走式田植機 ④自走式防除機(スピードスプレーヤー) ⑤自走式刈取機(コンバイン) ⑥自走式運搬機(トラック) ⑦その他の動力機械(動力式の脱穀機や草刈り機など) ⑧無人ヘリコプター	A又はBを行う事業主とその家族従事者 A: 常時労働者を雇用 B: 年間100日以上労働者を雇用
例	大規模農家	ほとんどの農家	パートさんが多い農家や法人

3. 保険料ってどれくらい？

保険料は、次の式で計算されます。

$$\text{年間保険料}^{(\ast 1)} = \text{給付基礎日額}^{(\ast 2)} \times 365 \text{日} \times \text{保険料率}^{(\ast 3)}$$

※1: 掛け捨てです。加入期間は4月1日から翌年3月31日までで、年度途中からの加入も可能です。

※2: 農業で1日働いたときの収入金額です。設定は3,500円～20,000円の範囲内で、労働局長の承認が必要です。

※3: 種類によって異なります。

①特定農作業従事者:9/1000、②指定農業機械作業従事者:3/1000、③中小事業主:13/1000

年間保険料の計算例 : 給付基礎日額 が 5,000円なら

種類	①特定農作業従事者	②指定農業機械作業従事者	③中小事業主
年間 保険料	16,425円 =5,000×365×9/1000	5,475円 =5,000×365×3/1000	23,725円 =5,000×365×13/1000

4. 相談窓口

申し込みは、特定作業従事者等の特別加入団体や、労働保険事務組合を通じて行います。詳しくは、下記の相談窓口へお問い合わせください。

対象エリア	連絡先
県全体	和歌山労働局総務課 労働保険徴収室 電話 073-488-1102
和歌山市・海南市・海草郡・ 岩出市	和歌山労働基準監督署 労災課 電話 073-488-1203
紀の川市・橋本市・伊都郡	橋本労働基準監督署 電話 0736-32-1190
有田市・有田郡・御坊市・ 日高郡（みなべ町を除く）	御坊労働基準監督署 電話 0738-22-3571
みなべ町・田辺市・西牟婁郡	田辺労働基準監督署 電話 0739-22-4694
新宮市・東牟婁郡	新宮労働基準監督署 電話 0735-22-5295

5. 自分にあった保険を

保険には、今回紹介した労災保険の他にも多くの種類があります。加入の要件や、費用、補償の内容をよく吟味して、自分にあった保険を選んでください。

お知らせ

新生「和歌山県農林大学校」始動！

平成29年4月に、和歌山県農業大学校を改編し「和歌山県農林大学校」が誕生します。農学部には「アグリビジネス学科」を新設するとともに「林業研修部」を新設し、農林業に活力を与え、新たな価値を創造することを目指しています。ここでは、次代の農業の担い手及びリーダーとして活躍できる意欲と能力を持った人材を育成する『農学部』を紹介します。

農業士の皆様におかれましても、近隣の学生さんの進学先として、ぜひご紹介をお願いします。

H29年度新設

アグリビジネス学科 Department of Agribusiness

農業生産

食品加工

観光農園

web販売

海外輸出

法人経営



農業の新たなビジネスに挑む！

- 農業生産から加工・販売までを体系的に学習
- 起業実践者や民間講師によるアグリビジネスの実践
- 企業的経営ノウハウの修得

園芸学科

Department of Horticulture

野菜

果樹

花き

農業者・指導者を目指す！

- 農業に必要な幅広い専門知識と技術の習得
- 県内で生産される品目別コースによる実践的実習



学生募集案内

農学部

学 科	定員	修業年限
アグリビジネス	10人	2年
園 芸	果樹ｺｰｽ	
	野菜ｺｰｽ	
	花きｺｰｽ	

入学試験日程

※追加入試は、一般入試で定員を満たした場合は実施しません。

試験区分	願書受付期間	試験日
一般入試	平成28年11月21日（月）～12月5日（月）必着	平成28年12月12日（月）
追加入試	平成29年2月27日（月）～3月13日（月）必着	平成29年3月17日（金）

専修学校 和歌山県農業大学校

住所 伊都郡かつらぎ町中飯降422

電話 0736-22-2203

FAX 0736-22-7402

<http://www.ag-wakayama.ac.jp/>

お問い合わせ
資料請求は
こちら！



11月と12月は、農作業事故に注意！！

和歌山県・JAグループ和歌山・NOSA | 和歌山・和歌山労働局

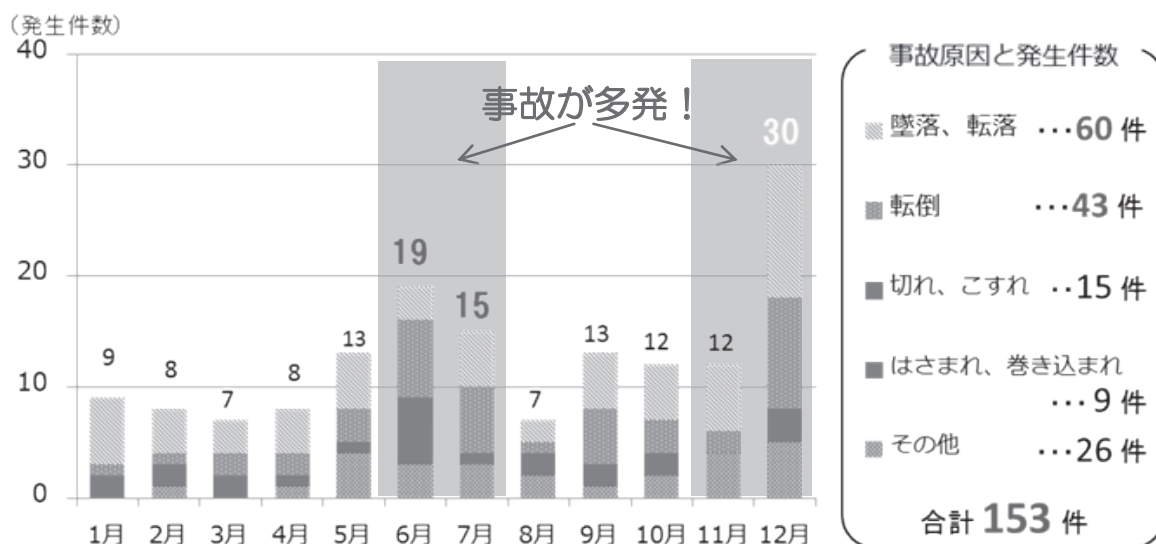
1. 農繁期は農作業事故が多発!!

11～12月の柿、みかん、6～7月のうめ、ももの収穫時期に多くの事故が発生しています。

2. 事故原因の大半は『墜落・転落』や『転倒』

傾斜地の果樹園が多い和歌山県では、樹木や脚立、傾斜地からの墜落や転落、作業中の転倒が多くなっています。

労災保険の休業補償対象事故の発生状況*（平成25～27年の3カ年合計）



3. 事故防止のポイント

ちょっとした「焦り」「気のゆるみ」「注意不足」が事故につながります。ゆとりある作業計画と事前準備を心がけましょう。

- 運搬通路の枝等の障害物を取り除いておく。
- 収穫時は、必ず手袋を着用する。
- 滑りやすい箇所や段差のある箇所では、足下に十分注意を払う。
- 脚立を使用する時は、足場を確認し、チェーンをかける。
- 草刈り機の草の絡まりを取り除く際は、必ずエンジンを停止させる。
- トラクターはバランスを崩しやすい乗り物であると認識し、段差を乗り越える時はできるだけゆっくりと進むなど細心の注意を払う。

4. 事故リスクに備えて、労災保険や共済への加入を

加入には要件があります。詳しくは最寄りの労働局やJA、農業共済組合へお尋ねください。

ご協力ありがとうございました 平成28年度近畿ブロック農業士地域研究会

和歌山県農業士会連絡協議会事務局

1. 開催の概要

近畿2府4県の農業士会で作る近畿ブロック農業士連絡協議会では、毎年1回、各府県の農業士が一堂に会し、研鑽と交流を図る研究会を実施しています。今年度は県農業士会連絡協議会が主催し、7月26日にみなべ町の紀州南部ロイヤルホテルで開催しました。

県内外から農業士や関係者約200名が出席し、広い会場内は大変盛況でした。

2. 研究会の内容

(1) 講演 「TPPについて」

農林水産省国際経済部 貞包 隆司 国際専門官による講演では、国際協議や関税交渉について講演が行われました。質疑では、県内の青年農業士がより詳しい説明を求めると、出席者の関心が集まりました。

(2) パネルディスカッション 「これからの農業を考える」

和歌山大学経済学部 大西 敏夫 教授がコーディネーターとなり、農業士（各府県代表者1名ずつ）と貞包講師がパネリストとして参加しました。

ディスカッションでは、いずれのパネリストも高齢化や担い手の減少、耕作放棄地の増加を課題に挙げ、対応に苦慮しているとの発言が相次ぎました。その一方で、消費者への働きかけを強めたり、海外への販売を模索するなど、将来も農業を続けていくために、柔軟な発想でさまざま取り組みが行われていました。

(3) 実演、展示、デモンストレーション

和歌山内各地域の農産物や加工品、ゆかりの技術を紹介しました。



詳しい説明を求めて質問する農業士



パネルディスカッション



実演「梅ジュースづくり」
(西牟婁農業士会 女性部会)



展示
県内各地方の農産物や加工品



デモンストレーション
パワーアシストスーツを体験

3. おわりに

当日は、各地方農業士会やみなべ町、JA 紀州、JA 紀南、株式会社ニッカリ、キリンビールマーケティング株式会社和歌山支店の皆様に大変お世話になりました。改めて感謝申し上げます。

(参考) 農業士について

昭和51年から県知事が認定している制度。

地域農業の振興と農村の活性化にリーダー的役割を果たしている農業者に対し、付与される称号。「指導農業士(65歳まで)」「地域農業士(60歳まで)」「青年農業士(40歳まで)」の3つの区分がある。

平成28年11月現在の認定者数は以下の通り。

指導農業士	161名(うち女性 27名)
地域農業士	561名(うち女性 63名)
青年農業士	152名(うち女性 2名)
合計	874名(うち女性 92名)



表紙の人

那智勝浦町 地域農業士

杉浦 仁さん

(和歌山県農業士会連絡協議会理事)

杉浦さんは、施設イチゴ、夏秋ナスの複合経営を営まれ、くろしお苺生産販売組合の組合長も務められています。

特に最近、イチゴの規模拡大及び高設栽培施設の導入による省力化に取り組まれています。

和歌山の農業士 第7号

発行日：平成28年11月

編集：和歌山県

和歌山県農業士会連絡協議会

印刷：有限会社 阪口印刷所



和歌山の 農業士

和歌山県
和歌山県農業士会連絡協議会

